mie Prefecture Fisheries Exper. Station Report #13

三重県水産試験場事業報告

第 1 3 号

Report on Investigations in Bonito Fish 1957

かつお漁業調査報告

昭 和 3 2 年 度

Albacore included

pp. 3-29 Translated
See Reprint File (mie Pref.)

三 重 県 水 産 試 験 場

昭 和 3 3 年 3 月

March 1958

発 刊 に 際 し て

昭和32年度のかつお漁業は比較的豊漁であつたにも拘らず魚価の低落が災いして経営面には苦しい痕跡を残しつつ終了した。

本場に於てその指導船は32年度、神威丸から大勢丸に移つているが本県業者の特技とも云えるかつお漁業の調査指導については深い関心を持ちその一環としてかつお、びんちよう漁況予報事業を行いこの結果を取纒めたものが本書である。本書を現在の形式で発刊してから既に第6号を数えるがその資料の入手、取纒、発表方法等については多くの変遷を経て来た。昨年度からは郵送資料に加えて沖合三重県かつお船から日々豊富な電信資料を送りこんでくるようになり漁況海況の判断、速報予報とも大きく確実な前進をみる様になつた。浜島、尾鷲両海岸局の夫々の管下にある業者船の無線通信士で結成されている鴻洋会及碧水会の会員諸君からは日夜非常に多忙であるにも拘らず夫々の漁撈長の了解のもとに豊富な資料が送り込まれて来ている。

これらが短時間のうちに整理検討された上〝かつお、びんちよう、海況漁況速報並に予報〟として浜島海岸局から電信、電話で1日に4回放送され印刷物で5日に1回各根拠地へ発送された。

以上を集成したものが本書であるがこれは全漁期中数多くの本県船から得た協力の結集であり独り本場のみのなした調査研究ではなくこれらの方々へ翌年度の漁況海況判断の参考資料としてお返ししたいと思う。今後能率的な運営の一助ともなれば幸いである。

引続き33年度もより豊富な資料の提供をお願いすると共に緊密な連絡のもとに調査研究を進めて行きたいと思う。

昭 和 3 3 年 3 月

三重県水産試験場長

野 本 一 郎

目　　次

pp. 3-29 Translated.

昭和32年度カツオ、ビンナガ鮪海況漁況速報並に予報事業実施の経過について

野　本　一　郎

1. 資　料　の　手　入

本県カツオ漁船は志摩、度会地区関係、南北牟婁、尾鷲地区関係の二つに分たれており前者は浜島漁業用海岸局管下、後者は尾鷲漁業用海岸局管下に属している。そしてこの大きな二集団内には更に小さく漁撈長とか無線通信士で結成された有志会、親和会等と称する数個の派生集団（……ブロックと呼んでいる）がある。本場ではこれらブロック毎に定められた対水試略号によりブロック内各船の模様を毎日電信で浜島、尾鷲両海岸局を通じ入手した。尾鷲海岸局よりは入電次第電話で報知を受けた。こうして沖合各船の海況漁況は即日の真夜中本場に蒐集された。

又これとは別に入港後直ちに郵送でその航海の精しい状況を入手した。

担当者　浜島漁業用海岸局　井上楠次郎他 7名

尾鷲漁業用海岸局　谷口楠太郎他 6名

2. 資　料　分　析

前日真夜中に入手した資料は翌朝直ちに解読して海図に記入する。これに関係官庁よりの資料を加えて部内で検討して等温線を画きこの等温線状況他種々の状況を考慮して速報及予報を作成した。

担当者　河村高知、　岡本久生、　森本池鶴子

3. 発　　表

等温線状況及海況漁況速報予報は下記スケジユールにより浜島海岸局より放送した。

日　程　毎　月

1.6.11.16.21.28 …………	（無線電信）等温線状況	（無線電話）海況漁況速報予報
2.7.12.17.22.27.31………	（　〃　）海況漁況速報予報	（　〃　）　〃
3.8.13.18.23.28 …………	（　〃　）等温線状況	（　〃　）　〃
4.9.14.19.24.29 …………	（　〃　）海況漁況速報予報	（　〃　）　〃
5.10.15.20.25.30…………	（　〃　）等温線状況	（　〃　）　〃

時 間 及 周 波 数

無 線 電 信

13h 35m～14h 00m	8.690kc
21h 10m～21h 30m	6.421.5kc
01h 30m～02h 00m	3.251.5kc

無 線 電 話

21h 20m〜21h 45m　　　　2.105kc

又プリントは5日毎に発行し関係官庁及下記を通じて入港各船に配布した。

尾 鷲 港…………三重県水産試験場尾鷲分場

清 水 港…………清水魚株式会社

焼 津 港…………浜口計器商会

塩 釜 港…………塩釜地区機船底曳網秋刀魚漁業協同組合

石 巻 港…………石巻魚市場

女 川 港…………女川魚市場及三重商会

気仙沼港…………気仙沼魚市場

大船渡港…………大船渡魚市場

4 期 間

5月16日から資料を入手、5月21日1号プリントを発行、同日電信、電話放送を開始し全船切揚の10月27日迄実施した。プリントは計32報を発行し無線電信電話による放送は計190報延640回を実施した。

Translation
pp. 3-29
in Reprint
File (see mi Prof.)
Jan-Aug 15 1957
Fishing + Oceanographic condition

昭和32年度海況漁況の概要

2月頃台湾沖を北上する黒潮勢力は弱勢であつたが3月頃より急激に強まり4～5月で平年並6月以降では平年よりも水温は高目に経過した。本年度の特筆事項としては、非常に豊漁であつた昨年度を1～2割方上廻る漁獲を見た事であろう。この原因としては以下順を追つて説明する通り野島近海に長期間に亘つて形成された低温域によるビンナガ漁場の隆盛と一方カツオも随所に好漁場が形成された事等があげられる。

1月　本年度鰹漁業は1月5日天草餌場発の白浦第一大勇丸に始まる。
漁場はスルー海（N8°35′～38′, E119°45′～47′）と鵞　鼻SW70浬附近の二ケ所で魚群はいづれも鳥付であつた。漁獲は台湾南沖の漁場が1航海3.000〆程度であつたのに比しスルー海では2日で10.000〆程度の好漁を見ている。

2月　暖水帯の北上が目立ち24°C水帯は八重山近海に接近し漁場も八重山周辺から鵞鑾鼻に至る水温23～24°C台水帯に変り1航海4.000〆程度の漁獲となつた。この漁場とは別に中旬に入ると台湾西側にも漁場が形成されたが漁獲は思わしくなく1日に500〆程度の漁獲であつた。

3月　漁場は台湾を界に台湾西側の琉球嶼から台湾堆に至る海区と台湾東側のガツド岩から宮古列島近海に至る海域に2分し、漁況も非常に好転し、東側で1航海5.000〆～7.000〆西側では10.000〆程度を漁獲した船も見られている。下旬になると小笠原西ノ島でビンナガが漁獲される様になつたが1航海1.500〆程度で非常に悪かつた。

4月　西ノ島附近のビンナガは中旬迄漁況は好転せず依然不漁であつたが下旬に入つて稍々好転し1航海5.000〆程度の漁獲を見た。カツオは薩南海区で1航海6.000〆程度の漁獲を見ていたが順次悪くなり、下旬には1航海4.000〆程度に減少した。又前月中旬より可成りの漁獲を見ていた台湾西の漁場も漸次悪くなり1航海5.000〆程度に減少し出漁船は少くなつたが代つて八丈近海に魚群が見えて来た。

5月　カツオは本州南岸沿いに流れる黒潮本流上に漁場が形成され足摺近海、大王近海、黒瀬、新黒瀬附近で1航海7～8.000〆程度の漁獲を見たがビンナガ漁場が野島ＥＳＥ100～150浬附近に形成されて非常に好漁を見たので中旬以降は殆んどの船がビンナガに集中した。ビンナガ漁場は其後旬を追つて拡大し著しい好漁を見た。中でも下旬に入つて形成された銚子Ｅ70～200浬附近の漁場は非常に好漁でこの海区えの出漁船は極く短期間に10.000〆以上の航海を続けた。

6月　銚子近海のビンナガ漁場は其後も非常に好漁で6月一杯は漁場を形成し、この海区えの出漁船は殆んどが数日で10.000〆以上の漁獲をあげた。又この他の海区でもビンナガは非常に好漁で野島Ｅ～ＥＳＥ300～600浬の広大な海区の随所で出漁船の殆んどが10.000〆以上の漁獲をつづけた。下旬に入ると野島沖をＮ34°線に沿つて東進する黒潮流路上でカツオの大群が見られる様になりカツオでも1航海

10.000〆以上の漁獲を見た船が多かつた。

7月　ビンナガは野島ESE400〜550浬附近に尚残存し上旬一杯は可成りの漁獲を見たが、カツオが6月下旬より各方面で好漁となり主力はカツオに向けられる様になつた。カツオの好漁場は全てE145°線以東に形成され中旬には塩屋沖から常盤沖に迄北上し素群・鮫付で悪い船で7〜8000〆殆んどの船が10.000〆以上の好漁をつづけた。そして7月下旬には魹崎沖迄魚群は北上したが7月末より漁獲成績は稍々落ちている。

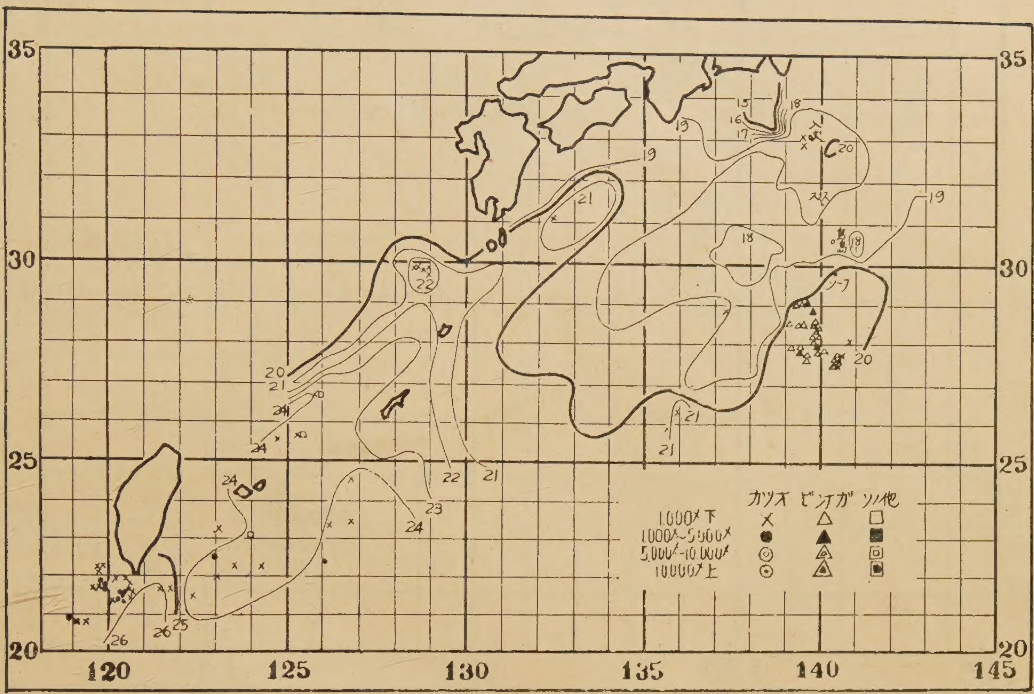
8月　魚群は野島沖から魹崎沖に至る広大な海区に分布する様になつたが餌付は漸次悪化し上旬から15日頃にかけて不漁の時期を迎えたが大型船は魹崎沖1.000〜1.200浬附近迄出漁し素群で依然好漁を続けた。中旬末から下旬には鮫角沖350〜600浬附近に素群鮫付の好漁場が永続し各船8.000〆〜10.000〆程度の好漁を見た。

9月　前月中旬末から鮫角沖に形成された素群鮫付漁場には尚群は残存していたが9月に入つてからは余り振わず漁場は更に沖側の襟裳東方500〜800浬附近迄移動し引続き8.000〆〜10.000〆程度の好漁を持続した。中旬に入つて魹崎E150浬附近でも若干漁獲されて来たが主漁場は依然沖よりに形成され殆んどの船が魹崎E400浬から襟裳E700浬附近に集中していた。下旬に入つて親潮勢力の南下が目立ち沖合漁場は消滅し主漁場は魹崎E250〜400浬附近に移つた。

10月　9月下旬魹崎E250〜400浬附近に形成された素群鮫付漁場は其後水温低下により鮫付群は減少したが漁場位置は殆ど変らず中旬初期迄8.000〆〜10.000〆程度の好漁を続けた。親潮勢力が強くなると共に漁場は暖流水帯の突出部の極小海区に形成される様になり9月末から10月初めにかけて魹崎E50浬附近に、又中旬には金華山沖70浬附近にも素群、鳥付の好漁場が成形され2〜3日で8.000〆内外の好漁を見た。又沖合でも極小海区に魚群が集中し中旬には新たに魹崎E500浬附近に1日3.000〆〜5.000〆程度の好漁場の形成を見たが下旬に入つて漁獲は激減遂に25日をもつて全船切揚を完了した。

昭和32年度旬別漁況海況

4 月 上 旬



（海　　　況）

薩南、紀南、豆南の海況をみるとN25°線を界にその北部では平年より1〜2°C低く南部では逆に1°C高目になつている。又銭州周辺は例年とはいちぢるしく低く水温 12°C 台の低水温帯も見られる。この点を除外すれば黒潮北上の状況は昭和31年度にいちぢるしく類似している様に思われる。

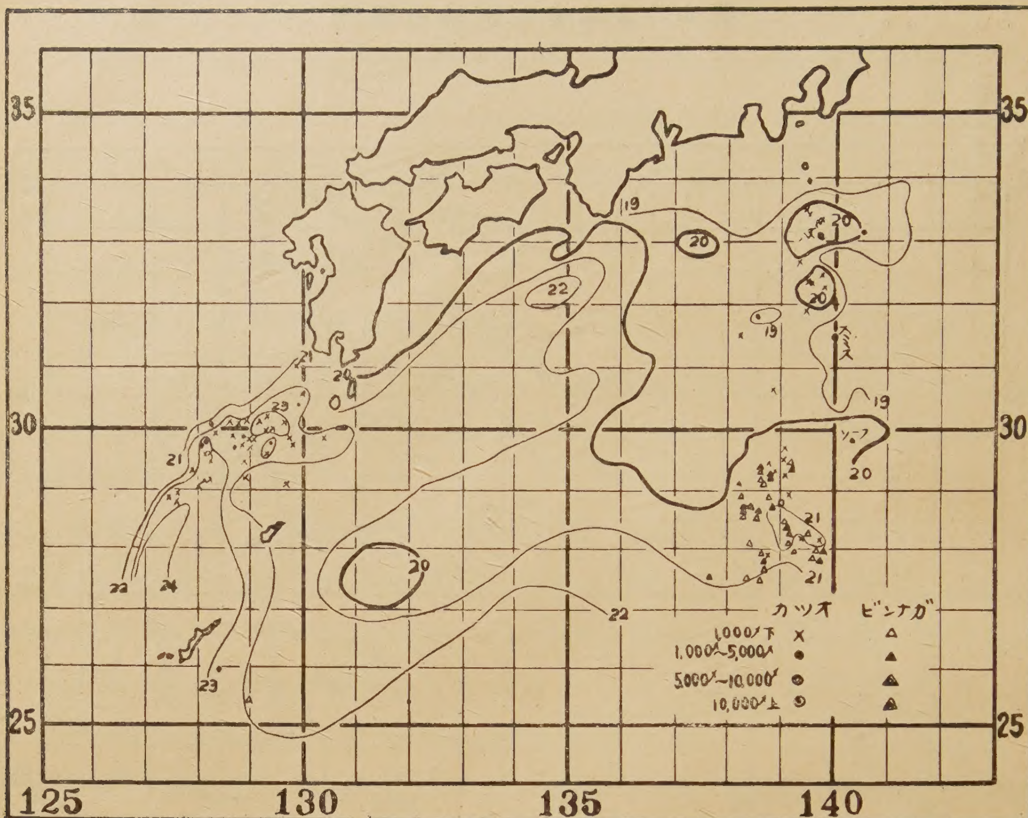
（漁　　　況）

漁場の形成も昨年度と非常に類似しておりカツオはバシー海峡から八重山列島附近、諏訪瀬島附近にみられている。ビンナガは西ノ島からソーフ岩ＳＷ60浬附近にかけて出現しており魚群はいづれも鳥付で魚体は 3.5メ〜6メの大型魚１日１隻 200メ内外最高でも 2.000メ 程度の漁獲で昨年より若干低調である。

4 月 中 旬

（海　　　況）

黒潮勢力の伸長はいちぢるしく、伊豆諸島周辺の水温が1°C程度低い他は昨年同期と全く同様な潮付けの様に思われる。（本場事業報告12号参照）琉球列島沿いに北上する黒潮本流は諏訪瀬島附近をＮＥに向い流速は2〜3節で可成り速くなつている。



（漁　　況）

（カ　ツ　オ）

臥蛇周辺のソネ付群により主漁場を形成１日 800〆 内外で昨年並であるが群が広範囲に分布しているので各船共平等に釣つている。この海区では１日に 3.500〆 の漁獲が最高であつた。

八丈島近海にも群が見えて来たが、最高1.000〆程度の漁獲で余り見るべきものはない。

（ビンナガ）

前旬に比し漁場水温は1°C内外高まつているが位置は大差なく、カツオ混りの群が多くなり、漁況は稍好転している。この附近の潮はＮＥ～ＮＮＥに1～2′て流れて目立つた漁獲は

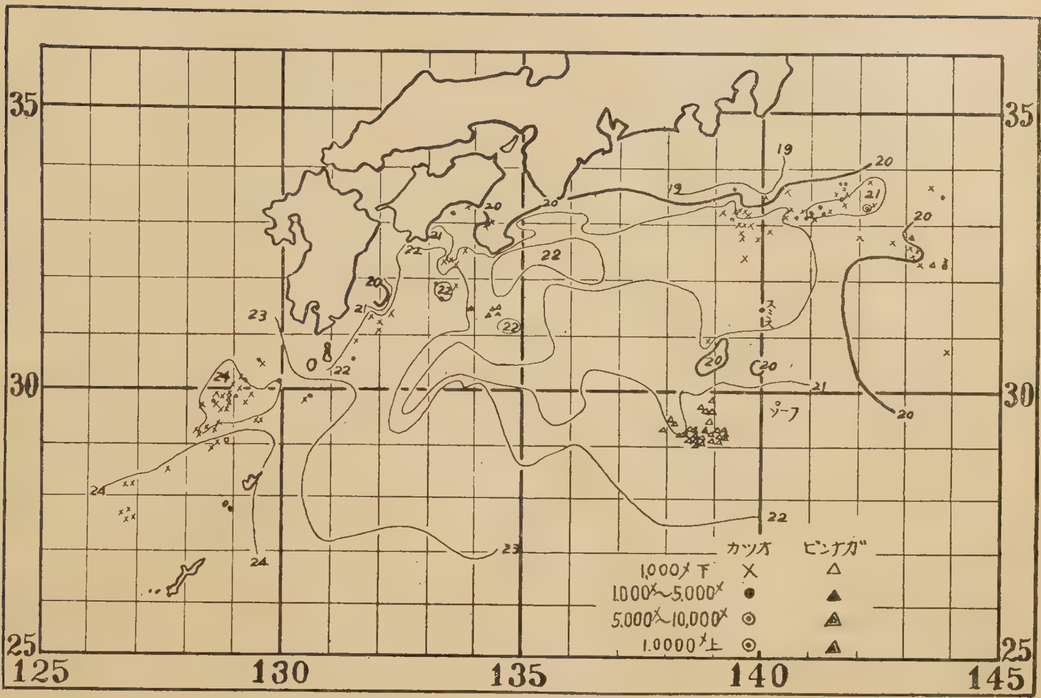
N28°41′ E138°—32′　水温20.6～8　ハネ群　付並　ビンナガ　4.5〆もの1263尾。

４　月　下　旬

（海　　況）

23°水帯の北上は稍おくれているが其後の黒潮の北上は全く強勢で水温 21° 台水帯は野島ＳＥ150浬附近迄達した。

伊豆列島線をこえてからの黒潮流向は昨年度と異りＥ～ＥＳＥにとつている模様。



（漁　　況）

（カ　ツ　オ）

薩南漁場……前旬より引続き本旬前半迄主漁場を形成していたが、其後も漁獲は好転せず天然餌料が多くなつたものか、次第にハネ群が多くなつてきており餌付は悪化しているが群は依然多く見られている。

豆南漁場……八丈附近からEに張り出す21°C 台水帯上を漁場としており旬後半より主漁場となつた魚群態は素群で1日5.500〆を漁獲した船が最高で1日平均500〆～1.500〆程度が漁獲された。又土佐近海にもカツオの廻游が見られているが目立つた漁獲はない。

（ビ ン ナ ガ）

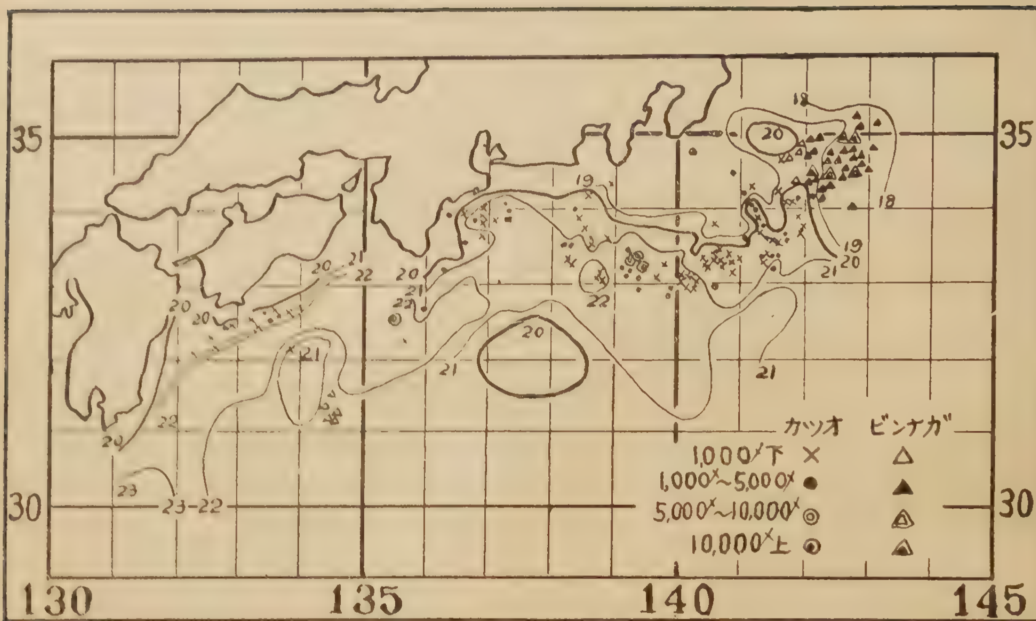
主漁場はソーフ岩 W80浬附近であるが漁況は其後も好転していない。室戸岬S100浬附近にも鳥付で3～4〆ものが出現しているが群少く餌付悪く1日最高1.800〆程度を見た船があつたにすぎない。

野島南東海域にも例年通り群が浮上して来たが例年より沖よりに漁場が形成されている。

5 月　上　旬

（海　　況）

野島岬より南東に張り出す顕著な冷水が残存しており黒潮本流はこれを南東に迂回して E141～142°線間をNに進んでいる。



（漁　況）

（カ ツ オ）

本州南岸沿いに流れる黒潮本流上の水温20～21°台水帯が漁場となつており特に黒潮周辺より東方に好漁場が形成されている。魚群は伊豆諸島線西側では鳥付が多いが東側では素群が多い。大王近海にも小群により漁場が形成されているが魚群の移動速度は可成り速い模様。黒瀬近海に5.000〆以上の漁獲が3隻見られているがいづれも木付である。

（ビ ン ナ ガ）

E141°～2°線附近を北上する黒潮本流の東側に好漁場が形成されている。曳縄及びハネ群で目廻りは1.5～3.5〆、群は非常に多い。

本旬目立つた漁獲は

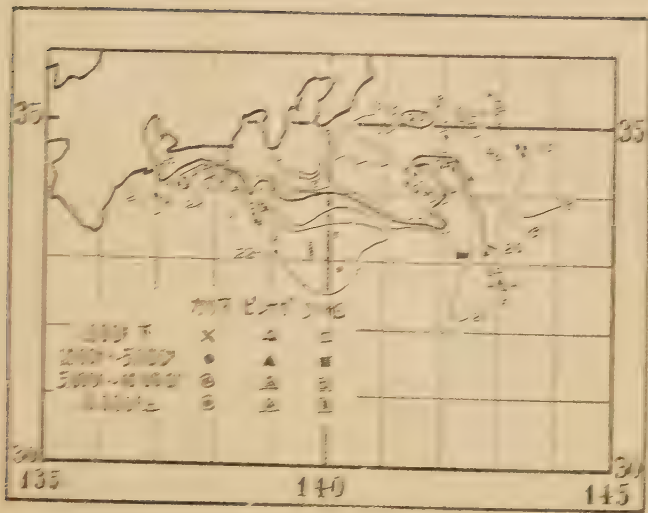
（カ　ツ　オ）

N32°32′	E135°27′	水温22.8	鳥付中群　付良	500匁以下のもの5.000〆	
N33°15′	E139°28′	〃 21.6	木付大群　〃	1〆以上のもの　5.800〆	

（ビ ン ナ ガ）

N34°30′	E142°25′	水温19.1～8.8	ハネ大群　付稍良	目廻1.5～3.5〆	5.700〆
N34°37′	E142°07′	〃 19.2	ハネ中小群　付並		5.000〆
N34°52′	E142°43′	〃 18.1	ハネ大群　付並		5.000〆
N34°52′	E142°31′	〃 18.2	ハネ大群　付良		6.000〆

[illegible]（[illegible]〜[illegible]）



（[illegible]　　　[illegible]）

[illegible]

（[illegible]　　　[illegible]）

（カ　ツ　オ）

[illegible]

（ビ　ン　ナ　ガ）

[illegible]

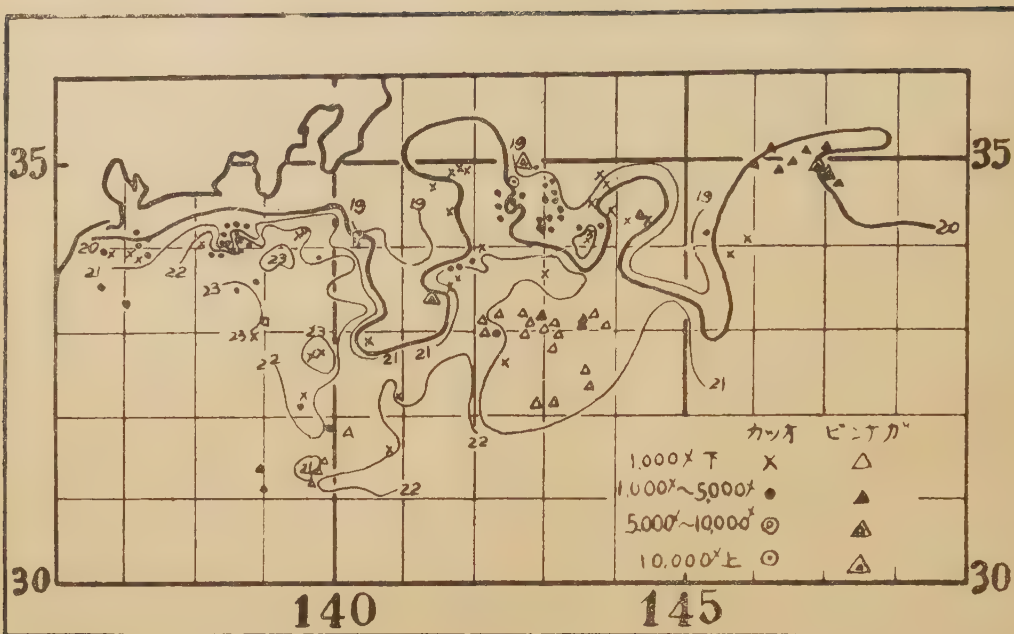
[illegible]

（カ　ツ　オ）

N34°[illegible]′　E137°[illegible]′　水温21.7　[illegible]　3,000尾

N33°[illegible]′　E139°[illegible]′　水温21.8　[illegible]　500〜[illegible]　4,500尾

5月中旬後半（16日～20日）



（海　　況）

紀南海区では黒潮は一段と接岸しこの海区での流れは旬前半 E/S にとつたが後半には殆んどEにとつている。

三陸沖の親潮勢力が昨年度より弱いにかゝわらず 野島近海では 親潮系の 残存勢力に影響されて 水温20°台水帯の北上は遅々としており昨年より1～2°内外低目となつている。

（漁　　況）

（カ　ツ　オ）

黒潮の接岸により銭州周辺は暖水温帯に覆われ銭州北辺が新しく漁場となつた。この附近から八丈島附近にかけては非常に多くの群がみられていたが餌付は皆無若しくは非常に悪かつた。

又野島ＥＳＥ100～200浬附近の水温 19～20°C 台の水帯にも好漁場が形成されている。この魚群は素群で目廻りは600匁。

（ビ ン ナ ガ）

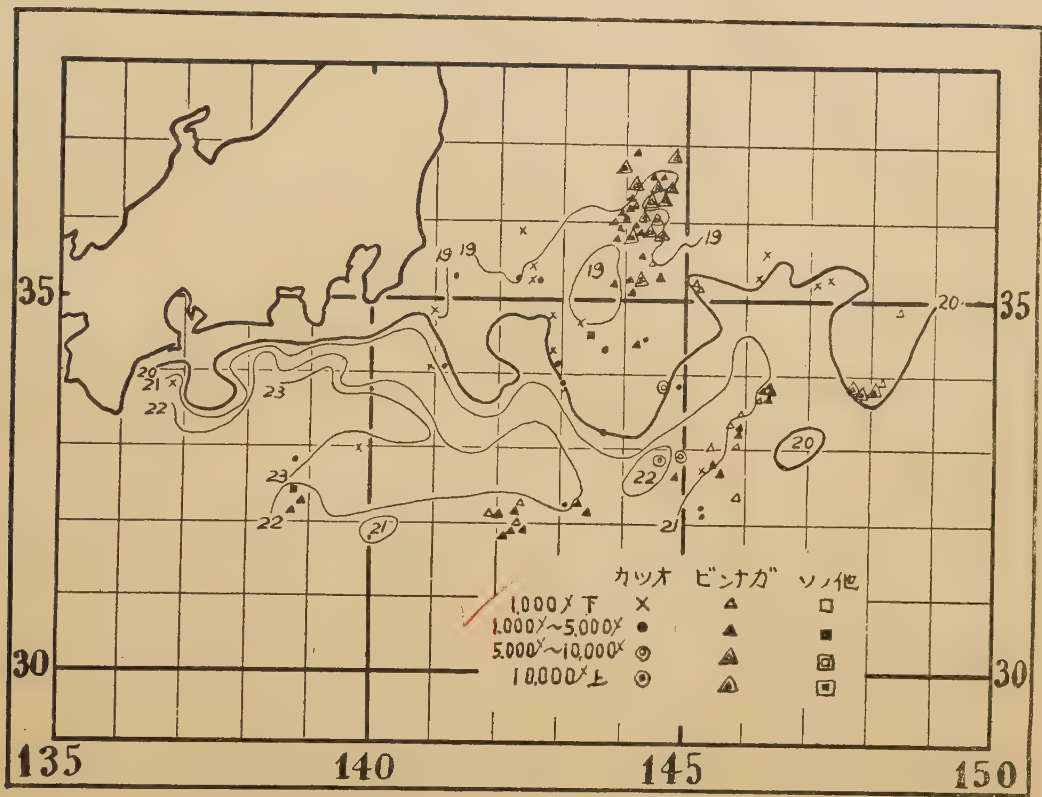
野島ＳＥ170～200浬附近の20°C水帯に依然魚群は濃く、残存しているが、餌付は悪い。野島Ｅ300～350浬附近でも素群、ハネ群が出現したが群は深く曳縄で操業１日300尾内外の漁獲であつた。目廻りは主として３メものが多かつた。

目立つた漁獲は

（ビ ン ナ ガ）

N34°55′　E146°50′　水温19.8～4　　鳥付中小群付やゝ良　7.500〆

5月下旬前半（21日～25日）



（海　　況）

20．21日にかけて本州南岸沿いに通過した低気圧のため水帯は大巾に変化した。即ち紀南海区では大王ＳＥ沖の水温が急激に低下し、水温20°C 以下の冷水塊が形成された模様で又 E141°～142° 線間をN35°線以北に迄張り出していた20°C台水帯は消滅した。

（漁　　況）

（カ ツ オ）

低気圧通過後の水温低下のため紀南海区では群はみられず低調。

（ビ ン ナ ガ）

23日より漁況回復特に銚子E150～200浬の水温 18～19°C水帯では1日 3.000〆～5.000〆の好漁。魚群態はハネ群で曳縄に来ており目廻りは1～3〆程度である。

N34° E148°附近でも鳥付で 2～3〆ものが漁獲されている。

目立つた漁獲は

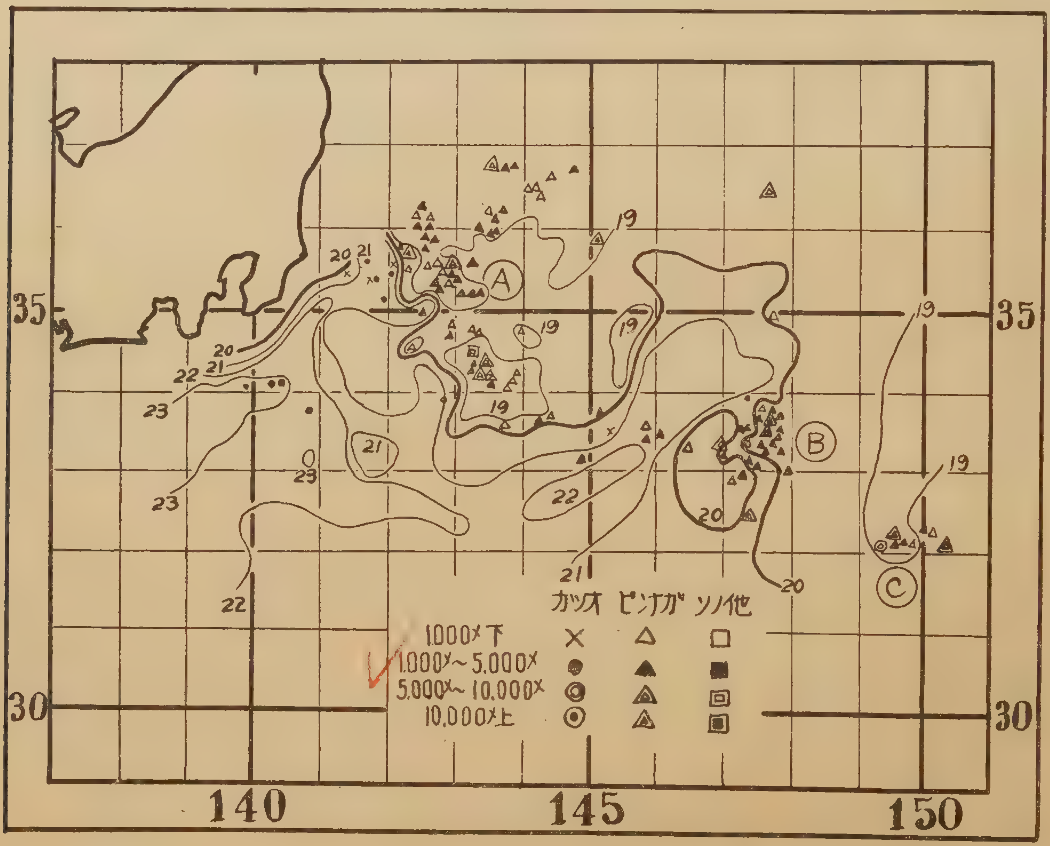
（ビンナガ）

N36°15′	E144°21′	水温18.4～19.3°C	ハネ中小群	付良好	目廻1～3.5〆	9.500〆
N35°51′	E144°14′	〃 18.9～19.0°C	ハネ大小群	付良好	〃 0.8～3〆	9.000〆
N36°23′	E144°17′	〃 18.8～9°C	ハネ中小群	付ヤヤ良	〃 1～2.8〆	7.000〆
N36°20′	E144°23′	〃 18.6～9.2°C	ハネ中小群	付不良	〃 0.8～3〆	6.500〆

（カツオ）

N32°56′	E144°55′	〃 22.4°C	トリ付大群	付並	1〆以上	5.000〆

5月下旬後半（26日～31日）



（海　　況）

野島東方60浬附近を北上する黒潮本流は26．27日にかけて急激に増勢し水温21°C台水帯はN36°線附近迄北上したが其後再び停滞気味である。

E148°線をSに張り出す親潮系勢力は依然強勢である。

（漁　　　況）

（カ　ツ　オ）　　其後も殆ど漁獲されていない。

（ビ ン ナ ガ）

Ⓐ　ヨコワ混りで目廻りは1.5～3メ、鳥付曳縄により1.200メ程度の漁獲となつた。

Ⓑ　鳥付群を主とし、目廻りは2～3メ1日平均1.500メ

Ⓒ　鳥付、ハネ群で目廻りは1.8～3メ、30日より漁場となつたもので5.000メ程度漁獲した船も2隻見られている。

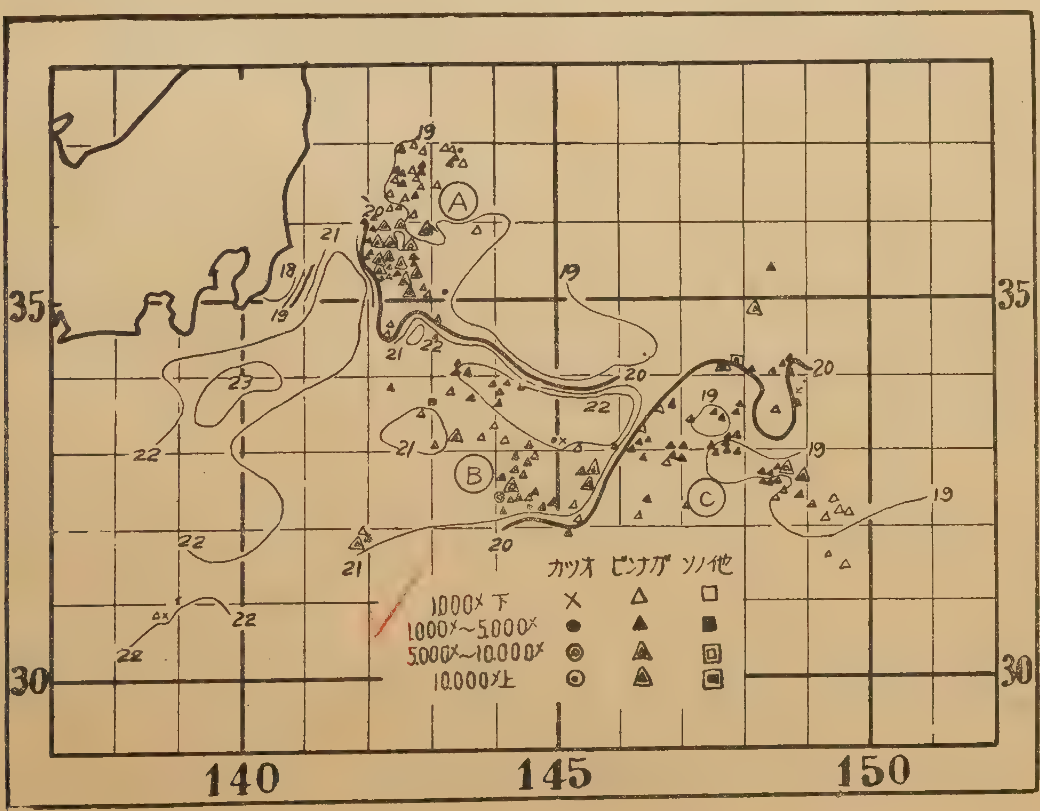
目立つた漁獲は

（ビ ン ナ ガ）

N33°30′	E147°45′	水温19.9°C	鳥付中小群	付良好	目廻2.7メ	7.500メ
N33°41′	E147°38′	〃 20.2°C	鳥付小群	付良好	〃 2.5メ	10.000メ

この他5.000メ程度釣つた船は数多い。

6月上旬前半（1日～5日）



（海　　況）

5月27—28日頃急激な黒潮勢力の伸長をみて海況は一変しどちらかといえば昭和28年同期の海況に類似して来た。野島東方80浬附近を北上する黒潮本流は鹿島灘に接岸して北上、N38°線附近より東に転じている。

（漁　　況）

（カ　ツ　オ）

依然低調で見るべきものはない。

（ビ ン ナ ガ）

Ⓐ　野島東方80浬附近を北上する黒潮本流の東側に形成された漁場で鳥付ハネ群で目廻りは1〜3〆ものである。

Ⓑ　N33°線沿いにゆつくりEに張り出す21°C台水帯に形成された漁場で鳥付、目廻りは2.5〆〜4〆と大型である。

Ⓒ　N33°線沿いに東流する暖流系水帯南側の18〜19°C台水帯に形成された漁場で、魚群は鳥付ハネ群、目廻りは1.5〜4〆、水温18°台水帯にあるもの程小さく19°C台水帯になると大きくなつている。3ケ所共魚群の餌付は余り良くないが1日平均3.000〆程度の漁獲をあげている。

目立つた漁獲は

（ビ ン ナ ガ）

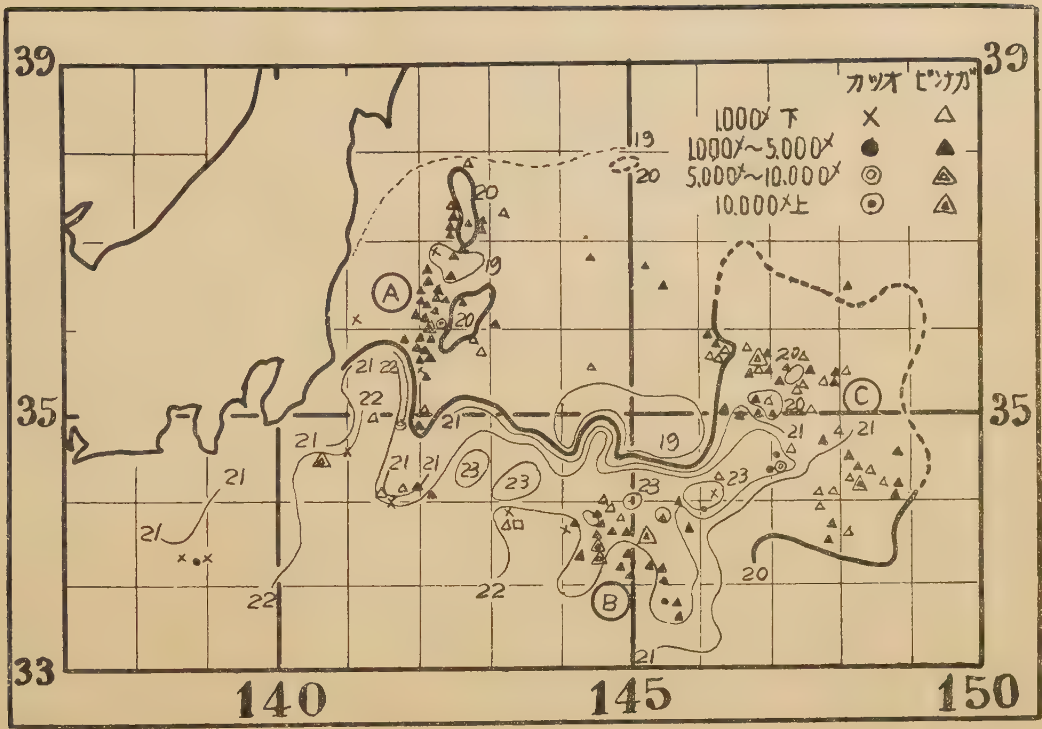
N35°15′	E142°32′	水温19.4°C	鳥付大中群	付良好	目廻1.5〜2〆	14.500〆
N35°40′	E142°39′	〃 19.7〜8°C	ハネ大中群	付並	〃 1.0〜2.5〆	8.000〆
N35°22′	E142°40′	〃 19.5°C	鳥付大中群	付良好	〃 1.5〜3〆	12.000〆
N32°25′	E144°05′	〃 21.7°C	鳥付大群	〃		8.000〆

この他7.000〆程度の漁獲を見た船は多い。

6月上旬後半（6日〜10日）

（海　　況）

N34°線に沿つて東に張り出す黒潮勢力は7日頃より大きく強まりE143°〜147°線間にはN34°線に沿つて水温23°台の暖水塊が随所に出現。又銚子E50浬附近をN〜NNEに張り出す黒潮本流は10日より非常に優勢。



（漁　　　況）

カツオは全然振わないがビンナガが引続き好漁で

Ⓐ　魚群は鳥付きで目廻りは3〆以上のものが多くなつている。8日頃よりこの漁場の東側に水温20°C台の暖水帯が形成されてからは漁獲は衰えている。

Ⓑ　鳥付群で目廻り2.5〆～3〆、良い船で1日2.000〆程度

Ⓒ　9日頃より操業、ハネ群で目廻2～3〆1日1.000〆程度の漁獲である。

目立つた漁獲は

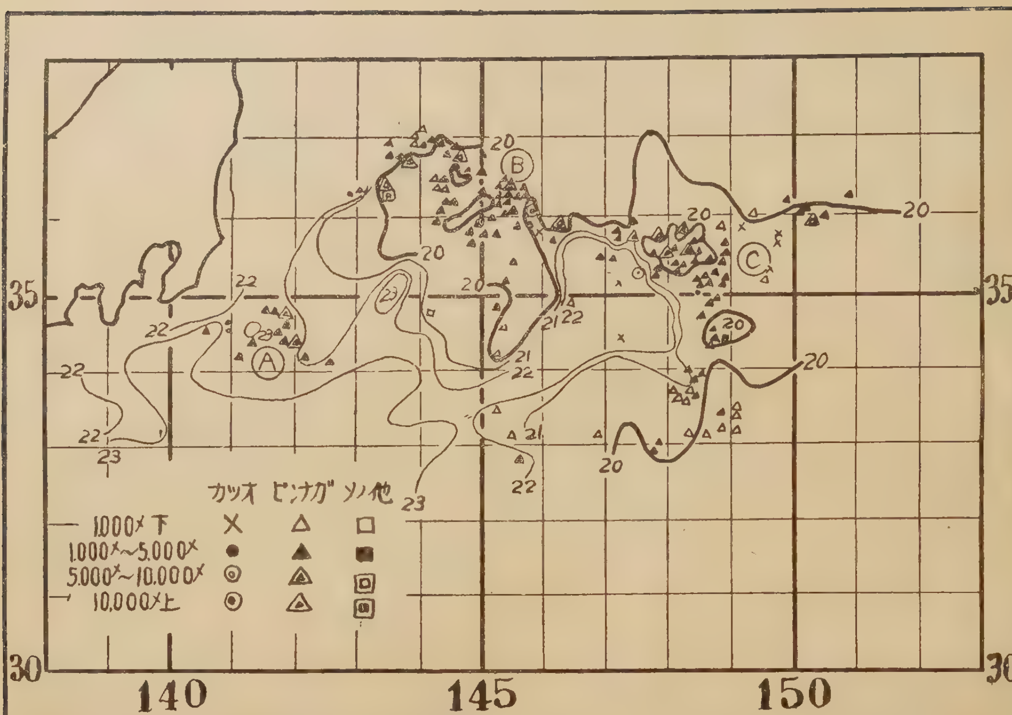
（ビンナガ）

N33°32′	E144°30′	水温22.6°C	鳥付大群　付良好		10.000〆
N34°15′	E148°16′	〃 20.0°C	鳥付大群　付良好	目廻り3～3.5〆	3.600尾
N33°24′	E144°31′	水温21.5°C	鳥付中小群　付良好	目廻3〆～4〆	2.200尾

6月中旬前半（10日～15日）

（海　　　況）

銚子近海をN～NNEに北上する黒潮は強勢で鹿島灘に接岸し、常盤沖を東流している。このためN38°線以北でも水温20°C台水帯が観測されるなど、水温は大巾に上昇して野島沖、三陸沖は平年より1°C内外高目であるが昨年と比べるとやはり2～3°C内外は低目である。



（漁　　況）

（カ　ツ　オ）

N36° E145°50′附近の極小海区に素群の大群が洄游し3.000〆程度釣らせる群も見えている。

（ビ ン ナ ガ）

Ⓐ　鳥付群で１日2.000〆程度の漁獲がある。目廻りは3〜4〆の大型魚であるが群は少い。

Ⓑ　鳥付ハネ群で目廻りは２〜3.5〆程度、１日500〆から3.000〆程度の漁獲。

Ⓒ　鳥付、ハネ群であるが目廻りは2.5〜4〆とⒷに比し大型で、1日1.000〆〜3.000程度の漁獲である。

目立つた漁獲は

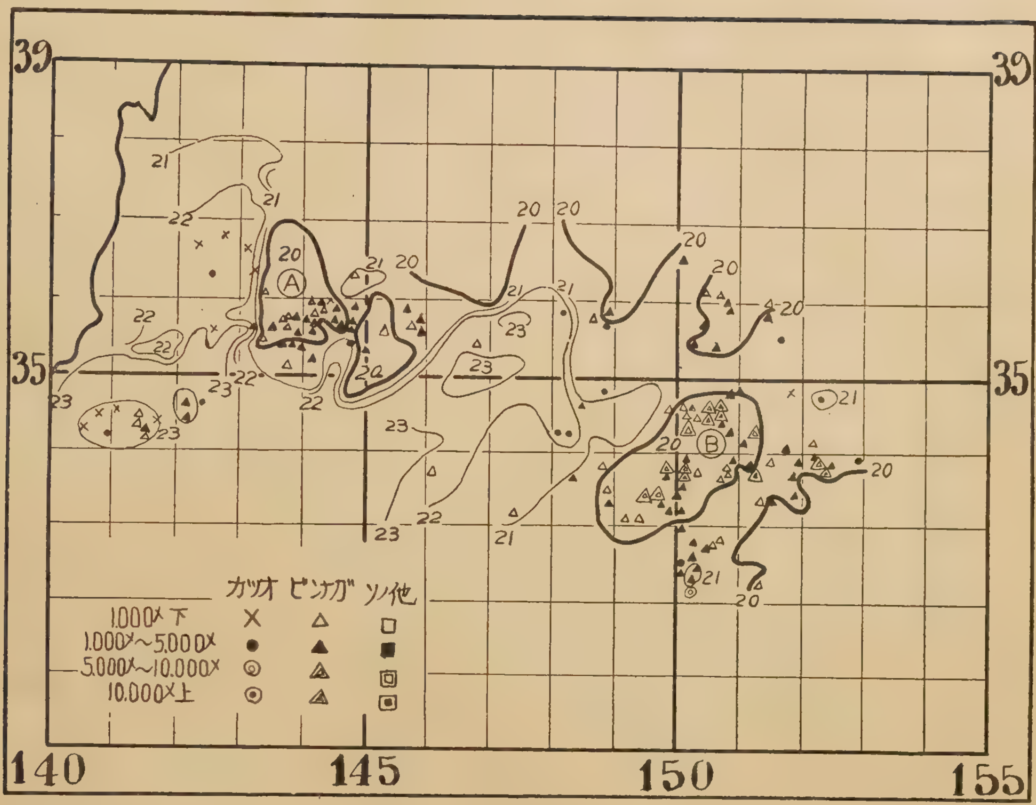
（カ　ツ　オ）

N36°05′	E145°53′	水温20.8°C	素群大群	付並	目廻500〜1〆	9.000〆
N35°10′	E147°41′	水温22.3°C	木付大群	付並	目廻1.3〆	15.000〆

（ビ ン ナ ガ）

N35°53′	E150°15′	〃 20.7〜21.0°C	素群中群	付稍良		7.000〆
N36°43′	E143°46′	〃 19.9°C	鳥付小群	付良好		6.000〆
N35°27′	E148°17′	〃 19.1〜2°C	鳥付ハネ群	付不良	目廻0.8〜2〆	7.500〆

6月中旬後半（16日～20日）



（海　　況）

常盤沖を東流しＥ144°線附近よりＳＥに転じている黒潮本流とＮ34°線沿いに東流する黒潮流はＮ35°Ｅ147°附近で合流しており５月中旬頃Ｅ147°線を南下していた親潮はこの二つの流れにとりのこされて20°Ｃ以下の冷水域となつている。

（漁　　況）

カツオが各方面で若干好転しているがビンナガが好漁であるため殆どの船がビンナガ漁場へ直行している。

（ビンナガ）

(A)　鳥付で目廻りは３メ以上の大型魚。良い船で１日1.000メ程度と漁獲は稍々不振となつている。

(B)　20°Ｃ以下冷水塊内部と、この東側の20°Ｃ台水帯が良く17日頃ハネ群で非常に好漁であつた。目廻2.5～3メ。

目立つた漁獲は

（ビンナガ）

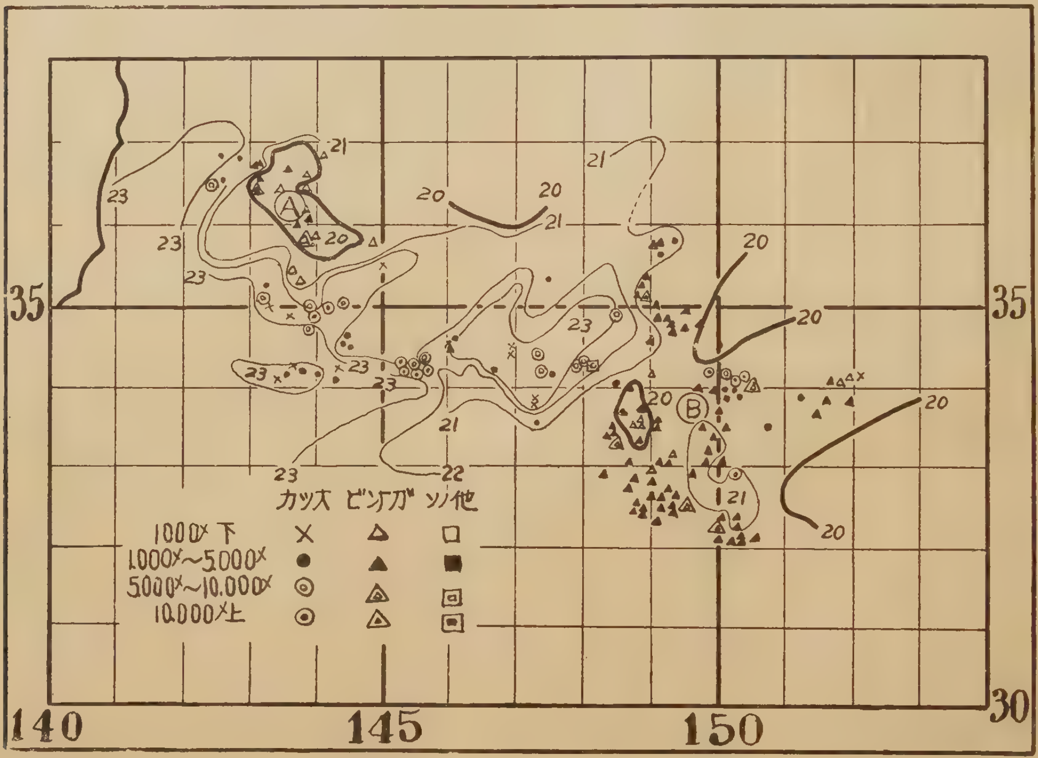
Ｎ33°20′　Ｅ149°52′　水温19.6～8°Ｃ　　鳥付ハネ大群　付良好　目廻2.5メ　　3.110尾

N34°17′	E151°20′	〃 19.6〜9.9°C	鳥付ハネ群	付良好	〃 2〜3〆	12.000〆
N34°41′	E150°47′	〃 19.3°C	鳥付大中群	付並		9.000〆
N33°43′	E151°18′	〃 19.9°C	鳥付大中群	付良好	〃 1〜3〆	10.000〆

（カ　ツ　オ）

N34°16′	E140°54′	〃 22.8〜6	木付中群	付始メダケ	〃500〜1〆	5.000〆

6月下旬前半（21日〜25日）



（海　　況）

鹿島灘沖の 20°C 以下の冷水塊は依然残存しているが各方面共黒潮勢力は順調に増勢、水温は上昇している。特に本年度は黒潮本流が本州東岸に接岸して北上しているので鹿島灘常盤近海の水温は昨年より2〜3°方高くなつている。

（漁　　況）

（カ　ツ　オ）

著しく好転しており塩屋E80浬附近及N34〜35°、E143〜151°の黒潮流路上で好漁が見られ1日5.000〆以上釣つた船も多い。魚群態は素群、鳥付、鮫付、鯨付で目廻りは700〜800匁程度。

（ビンナガ）

Ⓐ 素群鳥付で、目廻3〜4〆、1日2.000〜3.000〆内外と漁獲は稍々好転しているが、群は少くなっている。

Ⓑ 鳥付群、ハネ群、鯨付群で目廻りは2.7〆〜3〆、中には4〆程度の大型魚も見えている。21〜2日頃好漁が見られた。1日 2.000〆〜3.000〆内外で群は多い。

目立った漁獲は

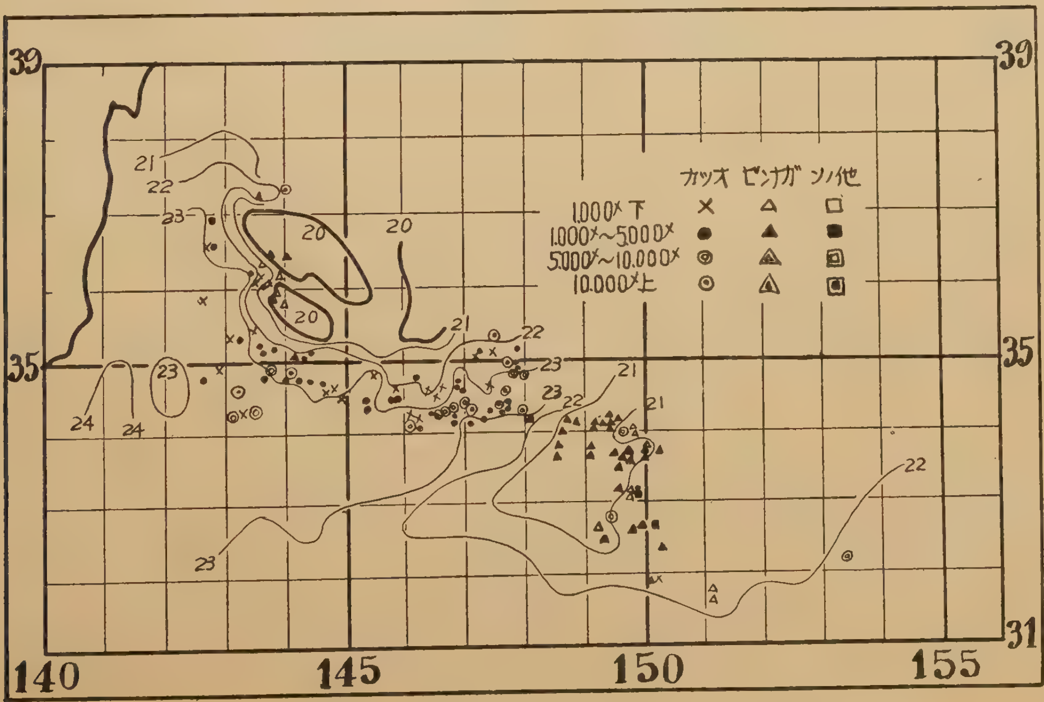
（カツオ）

N34°14′	E149°59′	水温20.4°C	素群大中群	付良好	目廻500匁〜1〆	8.000〆
N34°11′	E150°10′	〃 20.4〜9.9°C	素群大群	付ヤヤ良	〃 500匁〜1〆	8.500〆
N34°12′	E145°18′	〃 22.3°C	鮫付大群	付良好		13.000〆
N34°10′	E150°22′	〃 21.5°C	鯨付大群	〃	〃 500匁〜1〆	10.500〆
N34°13′	E147°59′	〃 22.0°C	木付大群	〃	7.000〆	メジ8.000〆

（ビンナガ）

N32°30′	E149°40′	〃 20.4〜6°C	鳥付中群	付並	〃 2〜3〆	8.200〆
N33°14′	E149°59′	〃 20.4°C	鳥付ハネ群	付良好	〃 2〜4〆	1.825尾

6月下旬後半（26日〜30日）



（海　　況）

N34°線沿いに東に張り出す黒潮勢力は25日以降非常に強勢となりE150°線をSWにN33°線附近迄張り出していた水温20°台の水帯は消滅した。

（漁　　況）

（カ　ツ　オ）

N34°線沿いに東流する黒潮流路上の水温21～22°台の水帯で1日2.000～5.000〆程度の好漁が続いている。群は素群、鳥付、鮫付、木付と種々であるが特に素群で大漁をした船が多かつた。目廻りは700匁程度である。

（ビンナガ）

N32～34°. E148～150°附近、水温20°～21°台水帯を主漁場としており群は鳥付ハネ群で目廻りは2.7～4〆で逐次大型のものが多くなつている。

目立つた漁獲は

（カ　ツ　オ）

	N34°25′	E147°36′	水温23.2°C	木付大群	付ヤヤ良		12.000〆
	N34°25′	E143°30′	水温22.8～3.0°C	木付大群	付不良	目廻5～600匁	8.500〆
	N34°55′	E147°50′	〃 22.6°C	素群大群	付良好	〃 700匁	10.000〆
	N36°33′	E150°21′	〃 22.2°C	素群大小群	付良好	〃 700匁	10.000〆
メジ	N34°13′	E147°59′	〃 22.7°C	木付大群	付良好		15.000〆

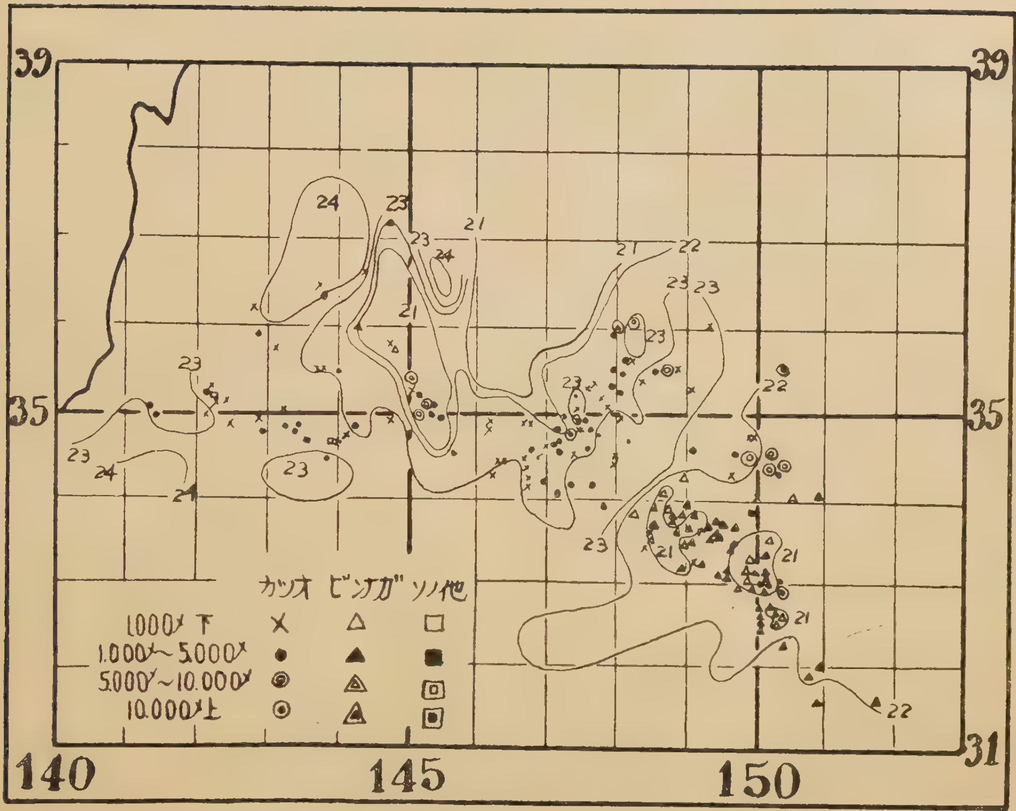
（ビンナガ）

N35°00′	E143°55′	〃 22.0°C	鳥付大群	付良好	〃 2～3〆	8.000〆
N35°51′	E143°41′	〃 19.8°C	鳥付小群	付良好	〃 2～3〆	6.000〆

7月上旬前半（1日～5日）

（海　　況）

引続き黒潮は著しく増勢し野島沖～常盤沖では平年より1°C内外高目である。唯E150°線附近を根強く南下している親潮勢力の影響をうけてN32～34°E148～150°附近のビンナガ漁場では水温は平年より1°C内外、低目となつているのが注目される。常盤沖を東流する黒潮流速は3～4節である。



（漁　　況）

（カ　ツ　オ）

依然34°線沿いに東流する黒潮流上を漁場としており魚群態は野島Ｅ200浬附近迄が鮫付、それより沖側では素群・鳥付を主とし木付、鯨付で大漁した船が多かつた。

（ビ ン ナ ガ）

野島ＥＳＥ450～550浬附近に出現している水温 21°Ｃ 以下の冷水塊の内部周辺に漁場が形成されており鳥付により１日1.000〆～2.000〆程度の漁獲を見ている。目廻りは2〆～4〆程度。

目立つた漁獲は

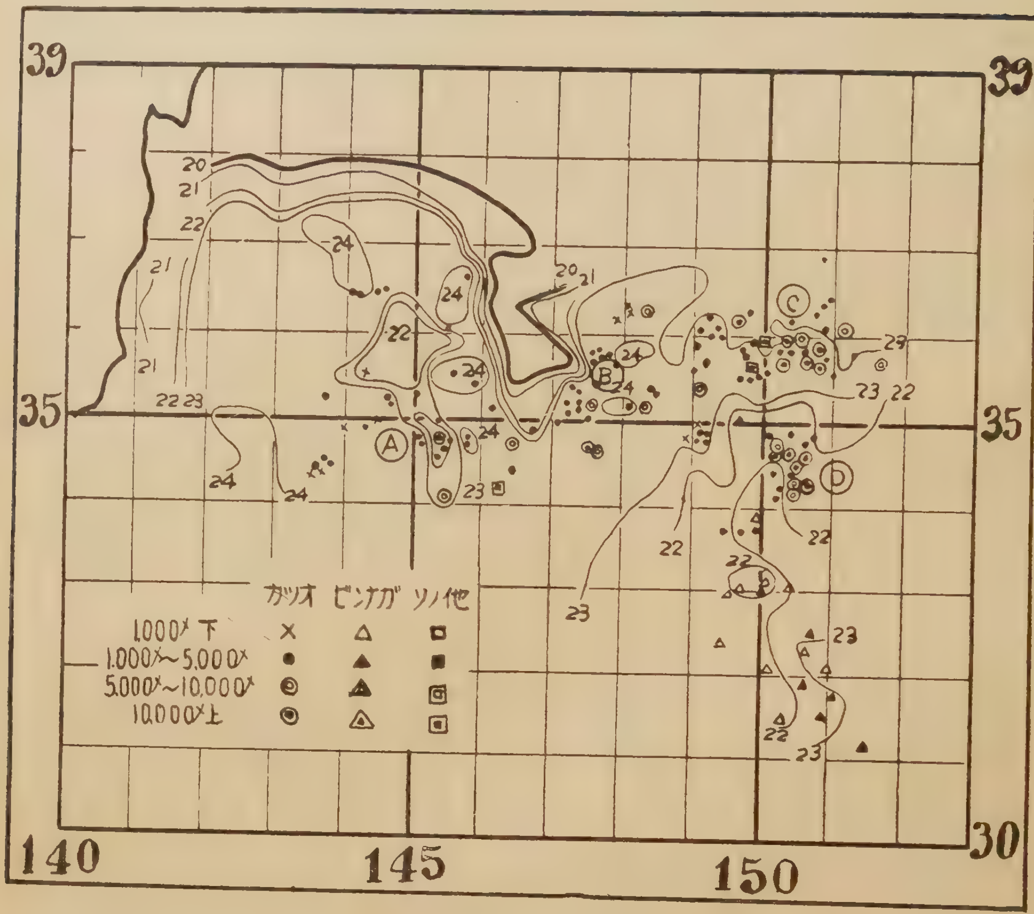
（カ　ツ　オ）

N35°37′	E150°23′	水温22.8～3.3°C	素群大群	付並	目廻500～1〆	8.000〆
N36°01′	E148°00′	〃 22.6°C	鯨付大群	付良好	〃 700匁	10.000〆
N35°00′	E145°08′	〃 19.9°C	木付大群	付良好	〃 4～600匁	6.000〆
N32°54′	E150°18′	〃 21.8°C	素群大群	付始め良	〃 4～500匁	7.000〆

（ビ ン ナ ガ）

N33°43′	E149°14′	〃 20.8～1.1°C	鳥付小群	付不良	〃 1.5～4〆	3.700〆

7月上旬後半（6日～10日）



（海　　　況）

6～7日にかけて水温は著しく上昇し、水帯も大巾に変化したが８日以降は黒潮勢力の伸長は稍々停滞気味となつている。塩屋Ｅ150浬、鹿島灘Ｅ250浬、野島Ｅ300.400浬附近の他黒潮本流上には水温24°Ｃ台の暖水塊が出現しているが前年に比べると水温24～25°Ｃ台水帯の北上は可成りおくれている。

（漁　　　況）

（カ　ツ　オ）

Ⓐ　鮫付で１日2.000〆～5.000〆程度の漁獲である。

Ⓑ　6.7日頃迄素群、鳥付、鮫付等で１日1.000～3.000〆程度の漁獲があつたが其後不振である。

Ⓒ　６日頃より鮫付、素群、木付で非常に好漁である。

Ⓓ　6～7日木付により１日5.000〆～10.000〆の漁獲があつたが以後は全く漁獲されていない。

（ビンナガ）

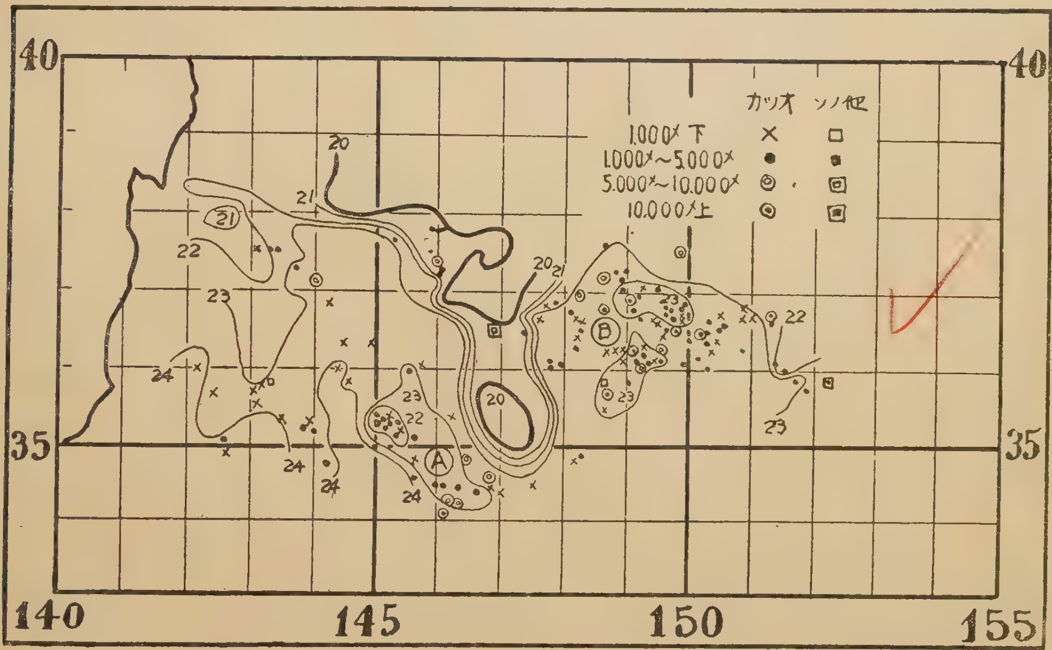
漁場位置は幾分沖によつて21°Ｃ以下冷水塊が消滅してからは全く不振である。

目立つた漁獲は

（カ　ツ　オ）

N35°54′	E150°05′	水温23.3～5°C	木付大群	付良好	目廻500～1〆	12.500〆
N35°13′	E147°38′	水温23.4～4.4°C	鮫付大群	付並	目廻500～1〆	9.000〆
N35°45′	E150°18′	〃 23.0°C	鮫付大群	付良好	〃 1.2〆	10.000〆
N34°25′	E149°33′	〃 23.2°C	素群中群	付良好	〃 1.3〆	20.000〆
N34°35′	E150°28′	〃 21.3°C	木付大群	付良好	〃 700匁	10.000〆
N35°58′	E150°14′	〃 23.4°C	木付大群	付良好	〃 4～600匁	12.000〆

7月中旬前半（11日～15日）



（海　況）

E147°線附近を南に張り出す親潮系勢力は依然強勢でN35°～35°50′E147°線附近には20°C以下の冷水塊がある。そしてこの親潮勢力の突込みを界として、その東側では水温は順調に上昇しており所々に24°C台の暖水塊も見られているがそれより西側のE146°線以西では稍停滞気味である。

（漁　況）

Ⓐ　11～12日頃迄前期より引続き鮫付群により1日3.000〆程度の好漁を見たが其後漁場は南に下りN34°線で1日5.000〆程度の漁獲を見た。

Ⓑ　主として鮫付、鯨付、7～9日には一時不振であつたが其後1日2～5.000〆に回復している。

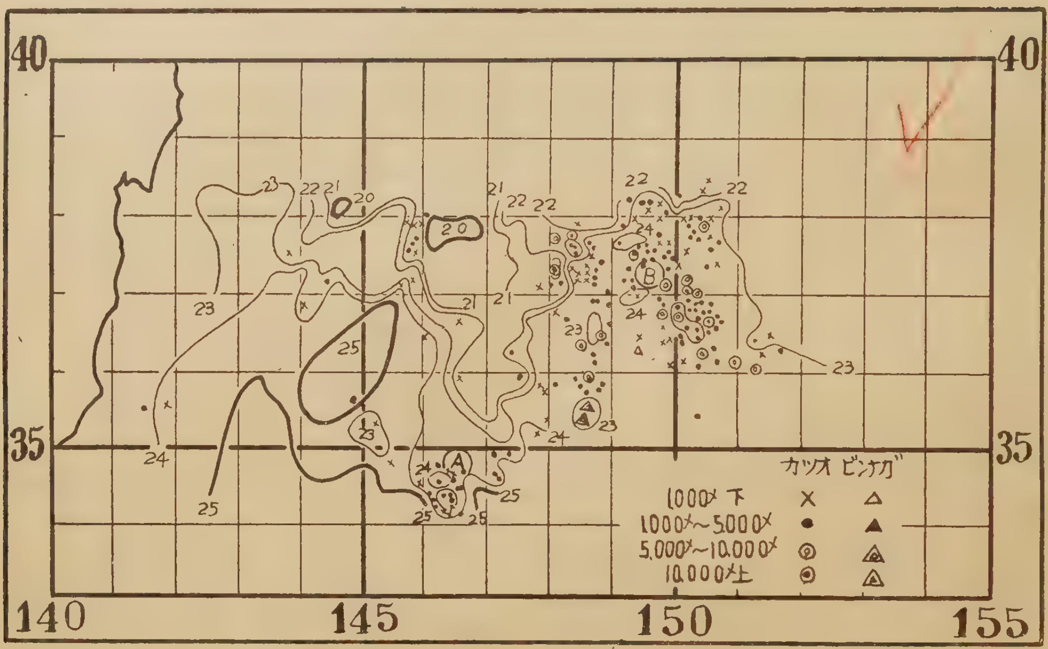
又三木崎近海で素群の大群により好漁を見た船があつた。

目立つた漁獲は

（カ　ツ　オ）

N33°45′	E136°15′	水温23.1～4°C	素群大中群	付良好		13.000〆
N36°08′	E149°30′	水温22.8°C	鮫付大群	付良好	目廻500～1〆	8.500〆
N36°32′	E151°21′	〃 22.7°C	〃	〃	〃 〃	10.000〆
N37°50′	E145°55′	〃 19.7～20.4°C	素群大中群	付始メダケ	〃 1〆	10.000〆

7月中旬後半（16日～20日）



（海　　況）

今期の海況は昭和28年度同期の海況に類似している（本場事業報告第8号19頁参照）が28年度に比べるとE148°線以東では水温は稍々高目である。E147°線をSに張り出す親潮勢力は依然強いが日毎に弱まつている。

（漁　　況）

（カ　ツ　オ）

Ⓐ　前期より引続き16日迄鮫付により漁獲を見たが其後殆んど出漁船は見られず各船共Ⓑ漁場に集中した。

Ⓑ　魚群は殆んど鮫付群で水温の上昇に従い除々に北上しており目廻りは7～800匁程度、17日頃非常に良く3.000〆～7.000〆程度の好漁を見たが普通1日500～3.000〆程度の漁獲である。

この他三木崎から大王沖にかけて引続き素群の好漁場が形成され21日迄可成りの漁獲を見ている。

ビンナガがN35°30′ E148°40′附近の23°以下の冷水塊内部で2～3〆ものが浮上し5.000〆以上釣つた

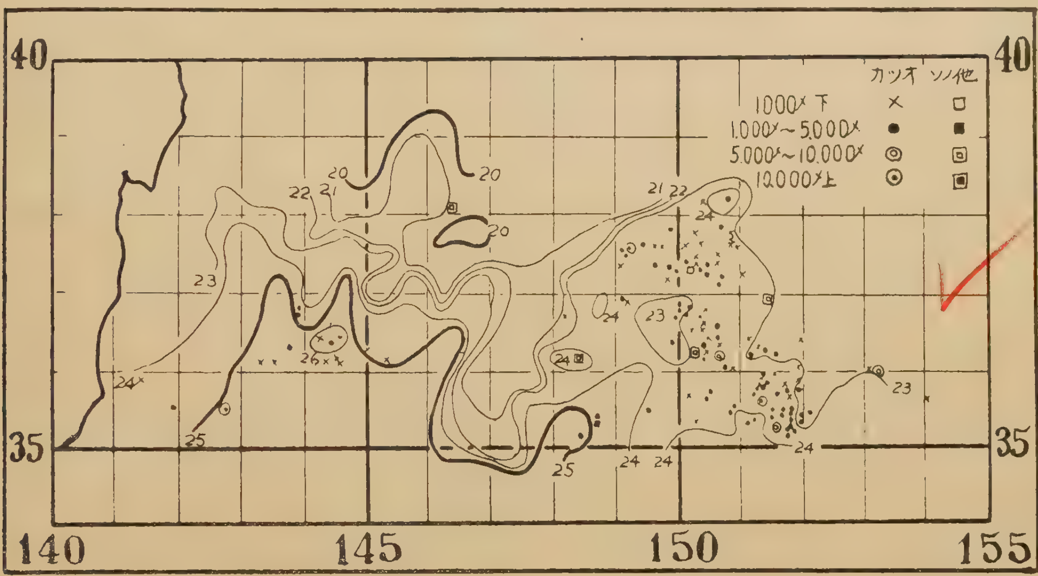
船が２隻見られている。

目立つた漁獲は

（カ　ツ　オ）

N37°03′	E148°55′	水温22.3〜4°C	鮫付大群	付良好	目廻500〜1〆	11.500〆
N36°43′	E150°25′	〃 23.3°C	鮫付大中群	付良好	〃 700匁	15.000〆
N37°31′	E149°19′	〃 23.2°C	素群大群	付良好	〃 4〜600匁	8.000〆
N33°43′	E137°05′	〃 25.2°C	素群大小群	付良好	〃 800匁	10.000〆
N37°23′	E148°08′	〃 20.6°C	鮫付大群	付良好	〃 700匁	10.000〆

7月下旬前半（21日〜25日）



（海　　　況）

本期E148°線以東では黒潮勢力は稍々停滞気味であるがE146°線以西では黒潮勢力は強勢となり水温25°C台水帯の北上が目立つている。

E147°線を南下する親潮勢力は平年より強目で水温は2°C内外低目である。

（漁　　　況）

ビンナガが全く終漁した。

各船共 E149〜152°線附近のカツオ漁場に引続き集中しているが漁況は北方程低調である。殆んどが鮫付群で１日800〜3.000〆程度の漁獲を見ている。

目立つた漁獲は

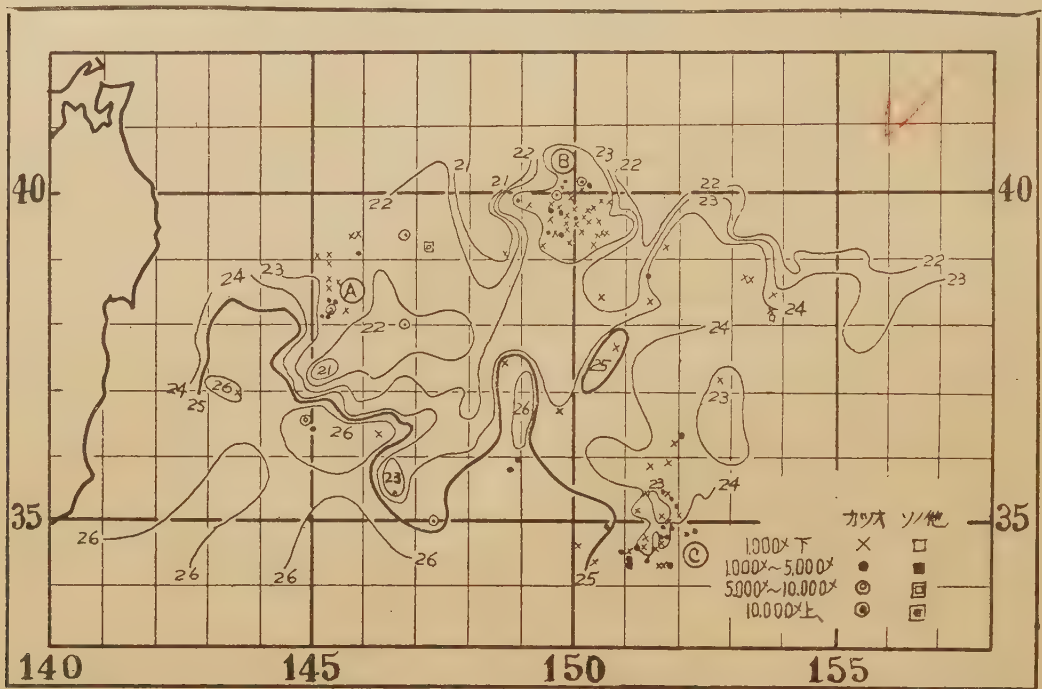
（カ　ツ　オ）

N35°32′	E142°40′	水温25.2°C	鳥付小群	付並	目廻500〜1〆	10.000〆
N35°15′	E151°34′	〃 22.5°C	鮫付大群	付並	〃 4〜600匁	7.000〆

（メ　　　ジ）

N36°10′	E148°31′	〃 24.1°C	鮫付大群	付並	〃 1.5〆	7.000〆
N38°05′	E146°20′	〃 21.0°C	〃	〃	〃 〃	7.000〆

7月下旬後半　（26日〜31日）



（海　　　況）

27日頃より各方面共、黒潮勢力は非常に強まり暖水帯は著しく北上している。前期迄E147°線附近を南に張り出していた冷水域は北部を高水温帯で斜断されたために中心温度が21°冷水塊となつて銚子東方300浬附近に残影をとどめているにすぎない。

（漁　　　況）

Ⓐ　27日頃より漁場となつたが素鳥付が多く鮫付は少い。27〜8日頃餌付が稍々良かつたが、その後は不調であつた。

Ⓑ　この24°台暖水塊は27日頃出現し、同時にこの内部が漁場となつたもので鮫付により29日頃迄1日800〆〜3.000〆程度の漁獲である。

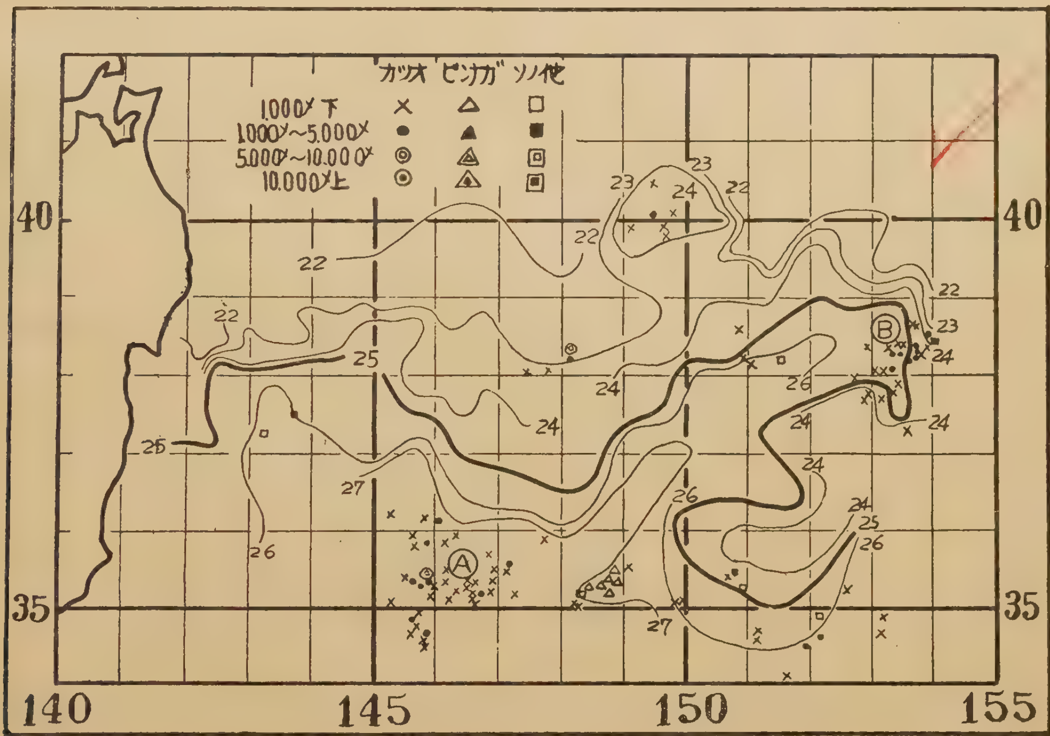
Ⓒ　鮫付群が多く見られているが餌付が悪く、1日500〆〜1.000〆程度の漁獲である。

目立つた漁獲は

（カ　ツ　オ）

N38°18′	E145°24′	水温21.7°C	鮫付大群	付良好	目廻500～1〆	8.000〆
N39°44′	E150°00′	水温24.7°C	鮫付小群	付良好	目廻700匁	10.000〆
N39°59′	E149°44′	〃 25.0°C	〃	付良好	〃 700匁	7.000〆
N35°00′	E147°23′	〃 24.6°C	素群中群	付良好	〃 1〆	10.000〆

8月上旬前半（1日～5日）



（海　　況）

N38°線以北では今期は暖流系水帯の北上は稍々停滞気味であつたがN38°線以南では水温26～27°C台水帯の北上が目立ち平年より1～2°C高目となつた。前期鮫角E400浬附近に出現した水温24°C台暖水塊の内部水温は稍々低下している。

（漁　　況）

Ⓐ　3日頃より鮫付群により漁獲されているが餌付悪く1日500〆内外。

Ⓑ　3～4日頃鮫付群により稍々好漁が見られた。

この他野島E450浬附近で鳥付により2～4〆ビンナガが浮上したが漁獲は極く僅かで1日200尾以内で

あつた。

目つた漁獲は

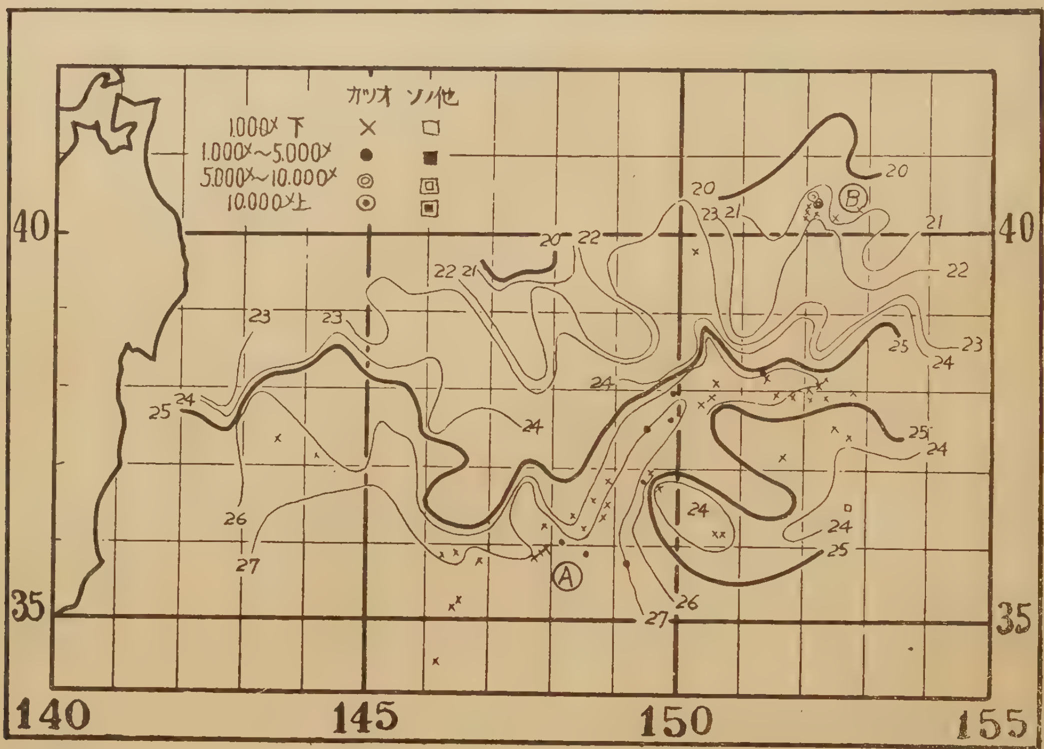
（カ　ツ　オ）

N38°18′	E148°09′	水温22.0°C	鳥付大群	付不良	目廻700匁～1〆	5.000〆
N35°30′	E145°56′	〃 27.4°C	鮫付小群	付良好	〃 700匁	5.000〆

（ビ ン ナ ガ）

N35°21′	E148°37′	水温25.9～6.0°C	鳥付小群	付不良	目廻2.5～3.5〆	161尾
N35°21′	E148°44′	〃 25.8°C	鳥付小群	付不良	〃 3.0〆	61尾

8月上旬後半（6日～10日）



（海　　況）

各方面共暖流系水帯の北上は稍々停滞気味で N39° 線以北では若干低下した海区も見られる。鮫角N400浬附近に見られていた水温24°Cの暖水塊は消滅した。

（漁　　況）

非常に不良である

Ⓐ　N36°～7° E148°～9°附近よりＮＥに張り出す水温 25°～26°C台の水帯上で鮫付群が多いが餌付悪

く餌釣りで操業している。

9日頃より稍々好転している。

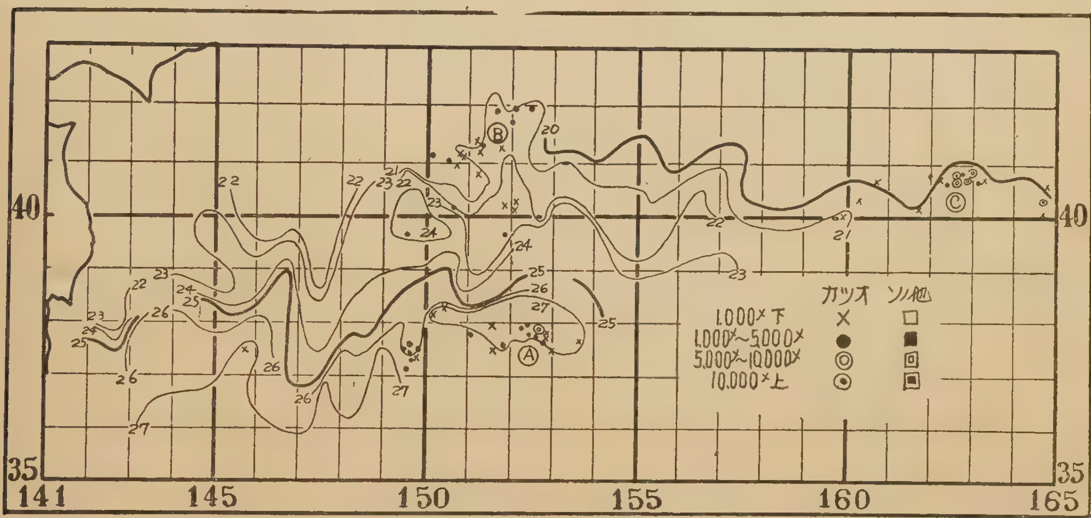
Ⓑ　鮫付、素群であるが餌付は非常に悪い。10日には5.000〆以上釣つた船もある。

目立つた漁獲は

（カ　ツ　オ）

N40°30′	E152°07′	水温22.2〜4°C	素群大群	付並	目廻500〜1〆	5.000〆
N40°28′	E152°06′	〃 22.0°C	素群大群	付良好	〃 800匁	5.000〆

8月中旬前半（11日〜15日）



（海　　況）

䑓崎東方400浬附近に再び24°C台の暖水塊が出現した。E150〜153°を北上する黒潮勢力は例年に比し非常に強勢で水温は2〜3°C高目である。

（漁　　況）

Ⓐ　鮫付群により1日500〆〜1.000〆程度の船が1日に2〜3隻。

Ⓑ　12日より形成された素群漁場で目廻りは7〜800匁。15日には漁場が若干西に移動し20°C台水帯でも漁獲される様になつた。

Ⓒ　11日より形成された素群漁場で漁場位置は昨年と殆んど同位置であるが水温は1°C内外低目である。

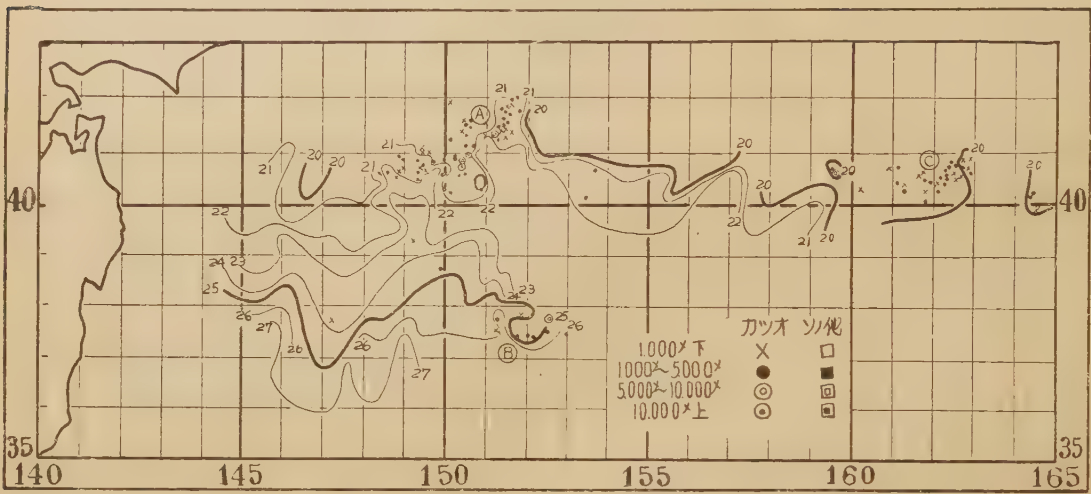
目立つた漁獲は

（カ　ツ　オ）

N37°54′	E152°45′	水温22.2〜4°C	鮫付中群	付不良	目廻500匁〜1〆	7.000〆

N40°45′	E162°51′	水温20.6°C	素群中群	付良好		8.500〆
N40°45′	E162°45′	〃 20.8~9°C	素群大中群	〃	目廻1〆以上	8.500〆
N40°48′	E162°42′	〃 20.5°C	素群中群	〃	〃 500匁~1〆	10.000〆

8月中旬後半（16日~20日）



（海　　況）

17日頃より全般的に水温が低下し前期にN38°、E151°~3°附近に見られていた水温27°C台暖水塊及N40°E149°30′附近に見られていた24°C台の暖水塊が消滅し他各方面共1°~2°C内外水温が低下した。

（漁　　況）

Ⓐ　鯨付、鳥付群も稀に見られるが殆んど素群である。19日頃より水温が上昇し魚群はN~NEよりに若干移動している。

Ⓑ　前期より引続き鮫付群を見ており餌付も若干良くなり19日には5.000〆程度を漁獲した船も見られているが主力が素群に向けられているのでこの海区えの出漁船は少い。

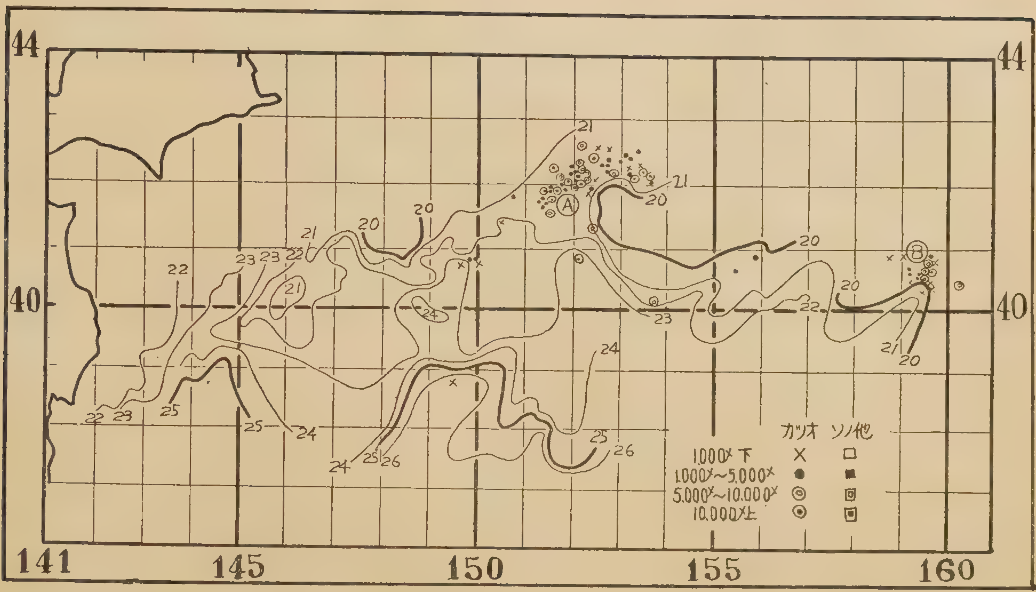
Ⓒ　素群多く1日1.000〆~3.000〆程度の漁獲を見ている。魚体は6~700匁程度のものが多い。

目立つた漁獲は

（カ　ツ　オ）

N40°50′	E150°30′	水温20.5~1.5°C	素群大群	付良好	目廻800匁~1.2〆	9.500〆
N40°53′	E150°31′	〃 21.0°C	素群大群	〃	〃 1〆	9.000〆
N40°57′	E150°43′	〃 22.0°C	素群大群	〃	〃 〃	8.000〆

8月下旬前半（21日～25日）



（海　　況）

黒潮系暖流水帯の北上は引き続22日頃迄強勢で全般的に水温は上昇したが其後再び停滞気味である。E 147°線附近を南下する親潮系寒流勢力の影響をうけてE 147°～148°線間では水温は平年より低目であるが其他の海域では平年よりいづれも2°C内外高目となつている。

（漁　　況）

Ⓐ　20～22日頃迄は非常に好漁で素群、鯨付で1日5.000〆以上を漁獲した船が続出した。魚群はENEに移動の模様で23日以降は鯨付群は殆んど見られなくなつた。

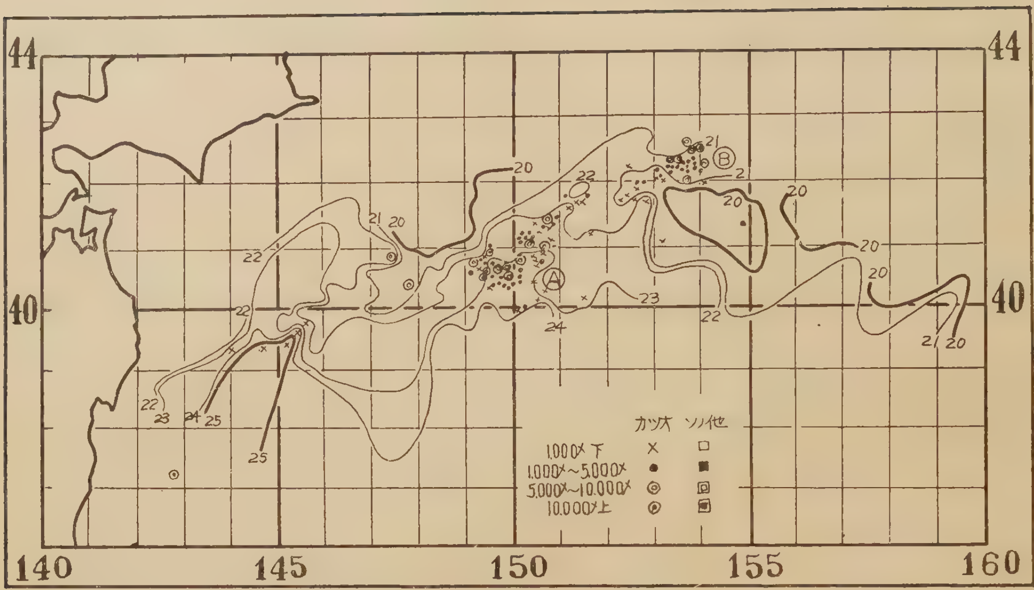
Ⓑ　22日頃迄は可成りの漁獲を見たが其後Ⓐ漁場に殆んどの船が移つたため振わなくなつた。

目立つた漁獲は

（カ　ツ　オ）

N41°50′	E151°40′	水温20.4°C	鯨付中群	付良好	目廻500匁～1〆	7.000〆
N41°57′	E151°44′	〃 21.1～9°C	素群大群	付ヤヤ良	〃 500匁～1〆	9.000〆
N42°11′	E153°28′	〃 20.8～21.8°C	素群大群	付良好	〃　〃	11.600〆
N40°35′	E159°31′	〃 19.7°C	素群大群	〃	〃 700匁	7.000〆
N40°30′	E160°15′	〃 19.8°C	素群中群	〃	〃　〃	7.000〆

8月下旬後半（26日～31日）



（海　　況）

親潮は襟裳岬沖から三陸近海を南下して金華山沖え達する流れとE147°線に沿つて南下する二つの流れが目立ち、この流域は平年より1～2°低目である。しかしこれを除けば本州東側の黒潮流域は引続き平年より2～3°方高目である。

（漁　　況）

Ⓐ　25日頃より鳥付、鯨付で若干漁獲されていたが27日頃水温の上昇と共に素群で本格的な漁場となつた。

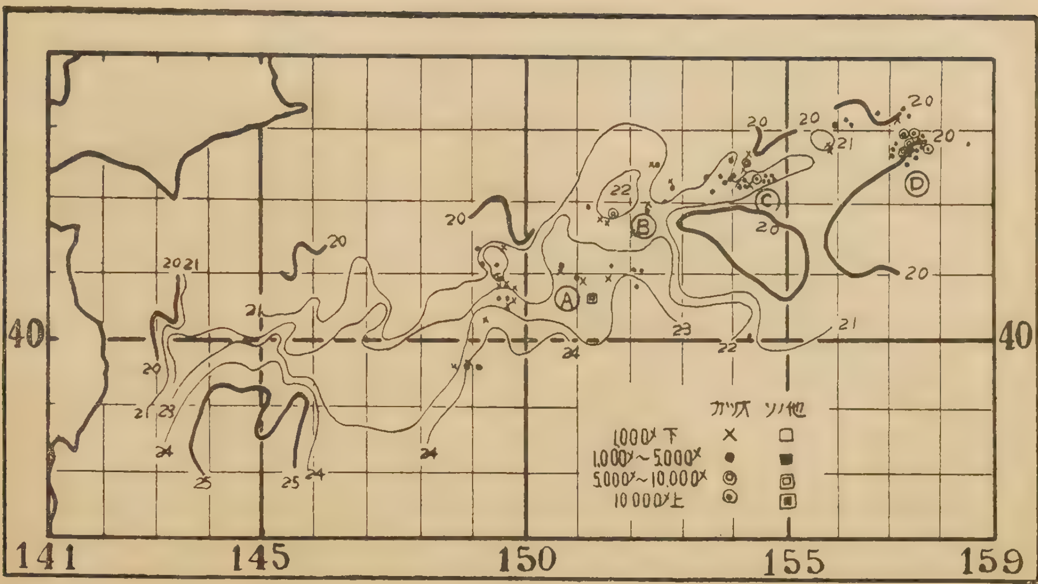
Ⓑ　20日頃より引続いている漁場で29日頃迄は1日500メ～1.000メ程度の漁獲であつたが30日頃より水温の上昇に従い活況を呈した。魚群態は素群及鯨付で目廻りは800匁。

目立つた漁獲は

（カ　ツ　オ）

N40°43′	E149°53′	水温23.3°C	鯨付大群、	付不良	目廻1メ	7.500メ
N42°20′	E153°30′	〃 21.4°C	鯨付大群	付良好	〃 800匁	7.000メ
N42°06′	E159°55′	〃 21.4°C	素群大群	〃	〃 500匁～1メ	8.000メ
N42°30′	E154°00′	〃 21.1°C	素群大群	〃	〃 700匁	7.000メ
N42°30′	E153°50′	〃 21.2°C	素群中群	〃	〃 800匁	10.000メ

9月上旬前半（1日～5日）



（海　　況）

2日頃全般的に水温が低下し特にN41°. E150°附近では2°C内外の低下を見たが其後は各方面共大きな水温低下はみとめられない。逆にN42°. E156°～158°附近では水温は稍々上昇している。

（漁　　況）

Ⓐ　2日頃より鮫付群により形成された漁場で3～4日にはN41°. E151°～2°附近で若干漁獲を見た。

Ⓑ　8月末に活況を呈した素群の残群で3日には5.000〆程度の漁獲を見た船もあつたが其後全く振わない。

Ⓒ　前期より3日頃迄引続き素群、鯨付で漁場を形成。

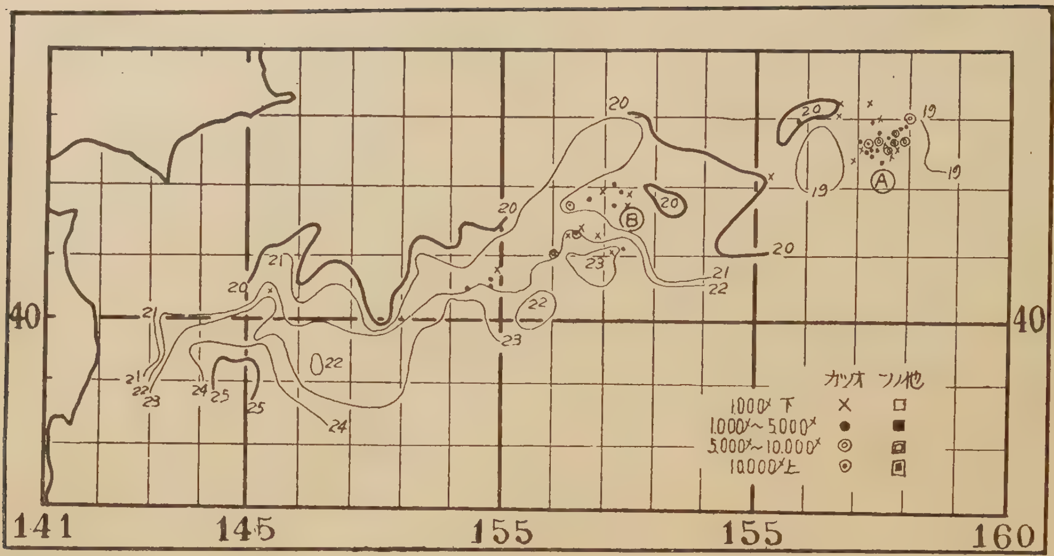
Ⓓ　3～4日には素群で好漁を見、主漁場となつた1日2.000〆～5.000〆程度で目廻りは700匁～1〆。

目立つた漁獲は

（カ　ツ　オ）

N42°45′	E157°43′	水温20.3°C	素群大群	付良好	目廻1〆	10.000〆
N41°46′	E151°43′	〃 22.0°C	素群中群	付良好	〃 700匁	7.000〆
N42°24′	E154°20′	〃 19.3°C	素群大群	付良好	〃 500匁～1〆	6.500〆

9月上旬後半（6日～10日）



（海　　況）

各方面共引続き水温は低下している。親潮勢力はE148°線附近とE153°線以東で強勢で前期N42°線沿いにE155°線附近迄Eに張り出していた水温21°C台の水帯は消滅した。

（漁　　況）

著しい水温低下による海況変化と悪天候のため各船共不漁である。

Ⓐ　3日頃より続いている素群、鯨付漁場で6日頃には可成りの好漁を見たが水温の低下に従い漸次不振となる。

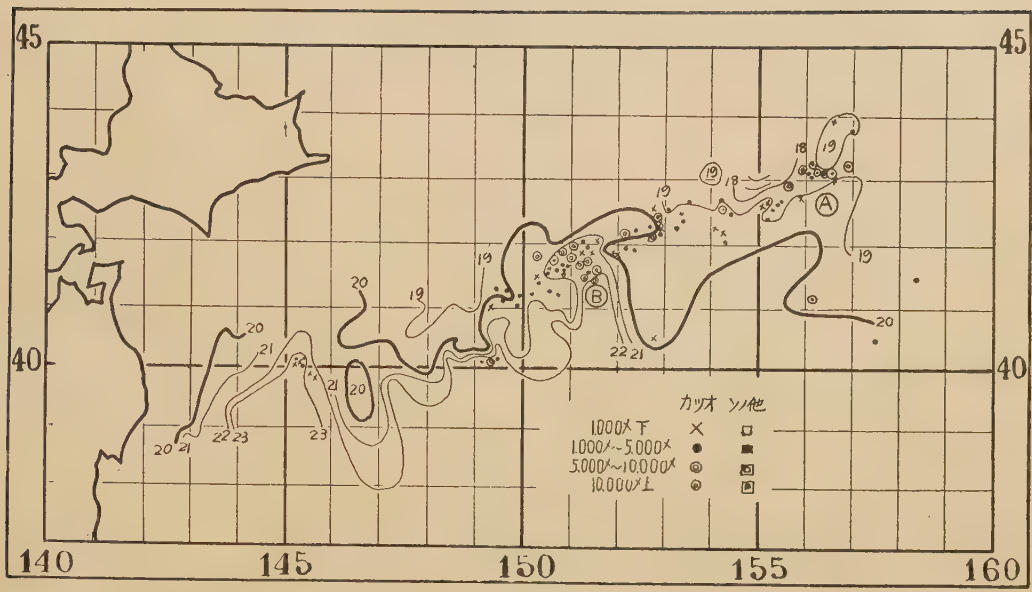
Ⓑ　20°C台水帯では素群、鳥付、21°～22°C台水帯では鮫付である。9日頃より素群漁場で稍々良くなり1日に10.000〆程度漁獲した船も見られている。

目立つた漁獲は

（カ　ツ　オ）

N43°00′	E158°02′	水温19.8°C	鯨付大群	付良好	目廻500匁～1〆	8.500〆
N42°41′	E157°58′	〃 19.5～6°C	鯨付大群	付良好	〃 500匁～1〆	8.700〆
N41°47′	E151°15′	〃 20.4°C	鳥付大群	付良好	〃 800匁	10.000〆

9月中旬前半（11日～15日）



（海　　　況）

E148°線をSWに張り出す親潮勢力は其後益々強勢となりE148°線以西では水温は著しく低下している。黒潮勢力はE151°線附近で稍々強勢でこの附近の水温は上昇しているがこれより沖側では水温は漸次低下している。

（漁　　　況）

E149°線以東では稍々好転し

Ⓐ　11日頃より素群で漁場を形成し可成りの好漁を見ている。

Ⓑ　素群、鮫付により主漁場を形成。目廻りは600匁～1.2〆で1日1.000〆～5.000〆程度の漁獲をみている。

この他魹崎 E170 浬附近にも鮫付、鳥付群が出現して来たが海況の変化が著しく好漁は見られていない。

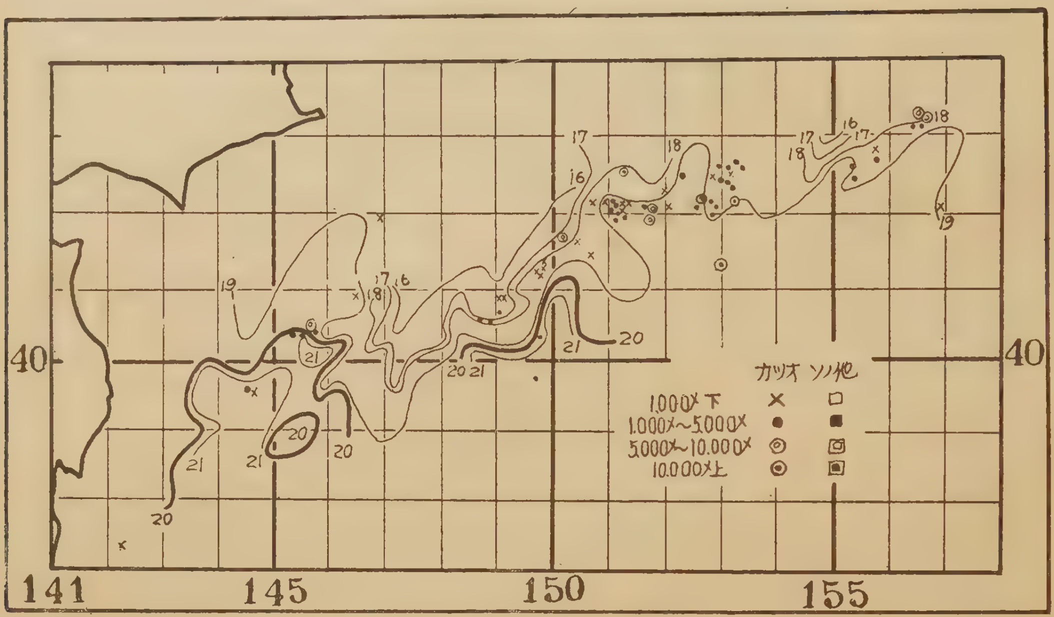
目立つた漁獲は

（カ　ツ　オ）

N43°15′	E156°20′	水温18.4～8°C	鯨付中群	付良好	目廻700匁～1〆	8.000〆
N42°55′	E155°33′	〃 15.6～19.5°C	鯨付大群	〃	〃　〃	7.000〆
N43°13′	E156°32′	〃 18.6°C	鯨付大群	〃	〃 500匁～1〆	7.000〆
N42°09′	E152°38′	〃 20.0～4°C	鳥付大中群	〃	〃　〃	8.000〆

N41°07′	E156°10′	〃 19.4°C	素群大群	〃	〃 800尋	10.000〆
N43°20′	E156°12′	〃 18.2°C	素群大群	〃	〃 〃	10.000〆
N42°35′	E154°10′	〃 19.2°C	素群中群	〃	〃 700尋	10.000〆

9月中旬後半（16日～20日）



（海　　況）

E152°線以東では水帯は停滞気味であつたがE152°線以西では18日以降親潮勢力は急激に強まり水温は2～3°内外低下し著しい水帯変化が見られている。

（漁　　況）

17日頃迄は前期に引続き 各方面共可成りの 漁獲を見ていたが 18日より水温が著しく低下したので E152°線以西の漁場は消滅した。N43°20′ E156°30′附近の水温17～18°C台の水帯で鯨付群により可成りの漁獲をした船があつたが 19日以降はこの海区では群は見られなくなつた。N42° ～ 42°30′. E152°～152°30′では引続き素群を見ており19日には10.000〆程度漁獲した船も見られている。N42° E151°～2°附近でも引続き素群、鳥付の小群を見ているが18日以降は 1 日 500〆内外に減少し漁獲船は 2～3隻である。

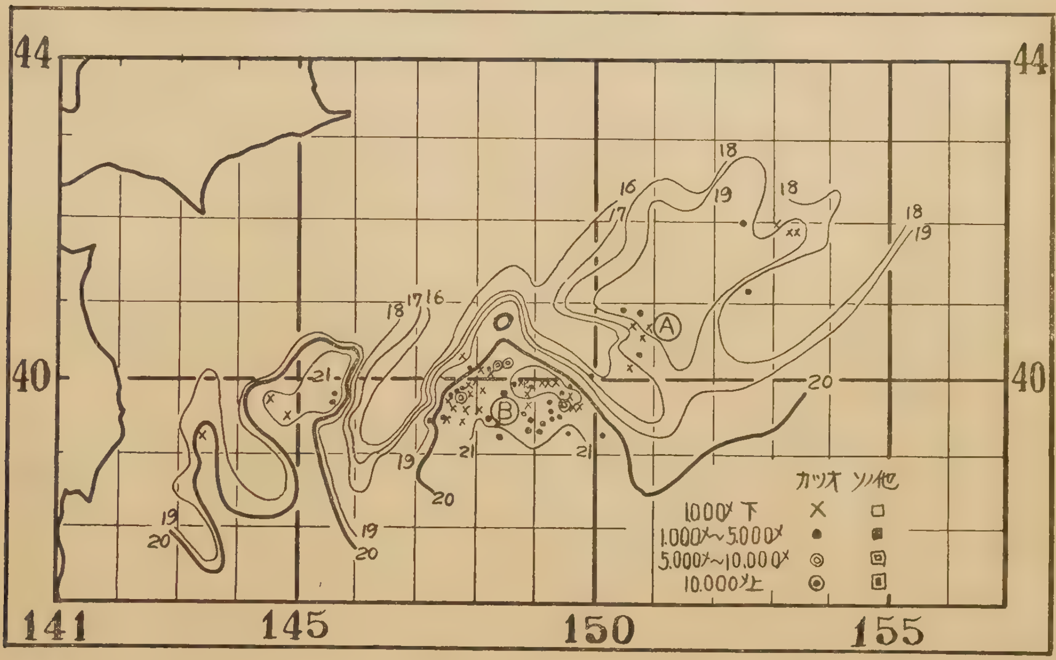
目立つた漁獲は

（カ　ツ　オ）

N41°20′　E153°00′　水温19.8°C　　素群中群　付良好　目廻500尋～1〆　6.500〆

N43°15′	E156°20′	〃 18.4°C	鯨付中群	付並	〃 1〆以上	6.500〆
N42°33′	E151°17′	〃 18.1°C	素群大群	付良好	〃 700～800夂	12.000〆
N42°11′	E153°17′	〃 19.2°C	素群大群	付良好	〃 〃	10.000〆

9月下旬前半（21日～25日）



（海　　況）

E150°線以西では引続き親潮勢力は強勢で各方面共水温の低下が目立ちN40° E149°附近に見られている水温21°C台暖水塊の内部水温は日々低下している。

（漁　　況）

Ⓐ　26日頃には鳥付、素群により若干漁獲されていたが其後全く出漁船は無い。

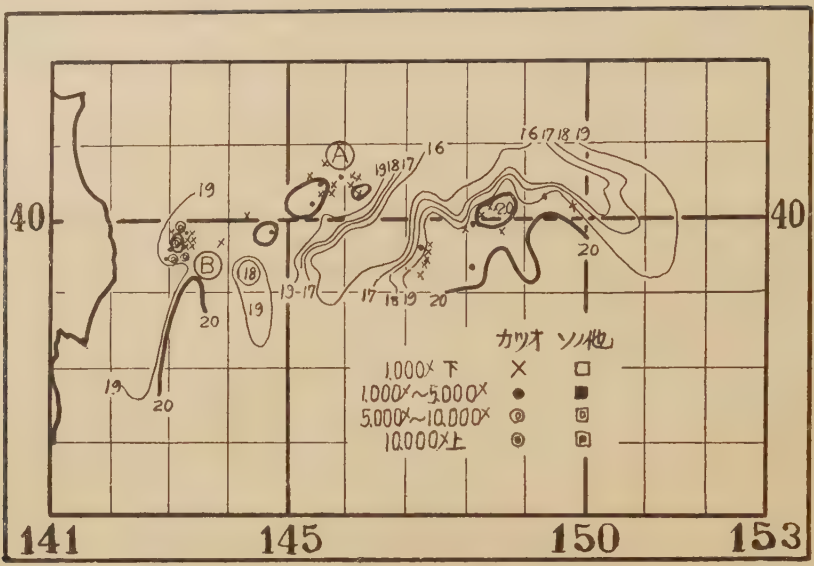
Ⓑ　この漁場は東側では鮫付西側は素群及び鳥付でいづれも1日500〆～2.000〆程度の漁獲。目廻りは7～800夂。

目立つた漁獲は

（カ　ツ　オ）

N40°07′	E148°22′	水温20.4～5°C	素群大小群	付始めだけ	目廻800夂	7.700〆
N39°40′	E149°36′	〃 21.0°C	鮫付中小群	付不良	〃 800夂	7.000〆

9月下旬後半（26日～30日）



（海　　況）

E147°線附近をSWに張り出す親潮勢力は其後益々強勢でE144°線附近を北上していた黒潮勢力は南部を冷水に斜断されて魹崎E50～230浬の海区に水温20°C台の暖水塊を多数形成した。又魹崎E300～400浬附近でも水温の低下が目立ちN40°10′ E148°30′附近に水温20°C台の水帯を残して附近の水温は19°C台に低下した。

（漁　　況）

前期活況を呈した魹崎E300浬附近の素群、鳥付漁場にはまだ群は若干残つているが水温低下による海況変化が著しいので漁況悪く500〆内外の漁獲を見る船が1日に2隻程度に減少した。

Ⓐ　前期23日頃より群が見られていたもので27日頃より餌付稍々好転し1日1.000〆～2.000〆程度の漁獲を見る船も現れた。

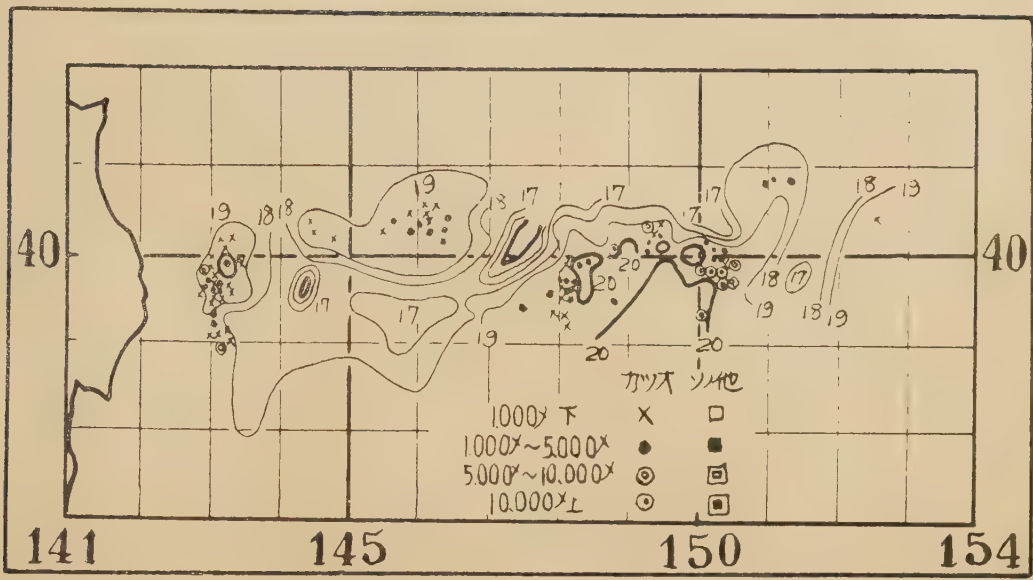
Ⓑ　29日頃より鳥付群により主漁場を形成した。目廻1〆以上の大型魚が多い。

目立つた漁獲は

（カ　ツ　オ）

N39°25′	E143°11′	水温19.6～8°C	鳥付中小群	付並	目廻800匁	7.000〆
N39°39′	E143°09′	〃 20.0～2°C	鳥付大群	付良好	〃　〃	5.000〆

10月上旬前半（1日～5日）



（海　　況）

親潮系寒流勢力の南下はＥ144°.148°.152°線附近で強勢で15°Ｃ水帯がＮ40°線に達した海域もある。Ｅ148°～150°線間にはＮ40°線沿いに水温20°Ｃ台の暖水塊が多数形成されている。

（漁　　況）

ⒶⒷ漁場は前期より引続き素群、鳥付により漁場となり２日頃迄可成りの漁獲を見たが其後水温の低下により漁獲は急激に落ちている。

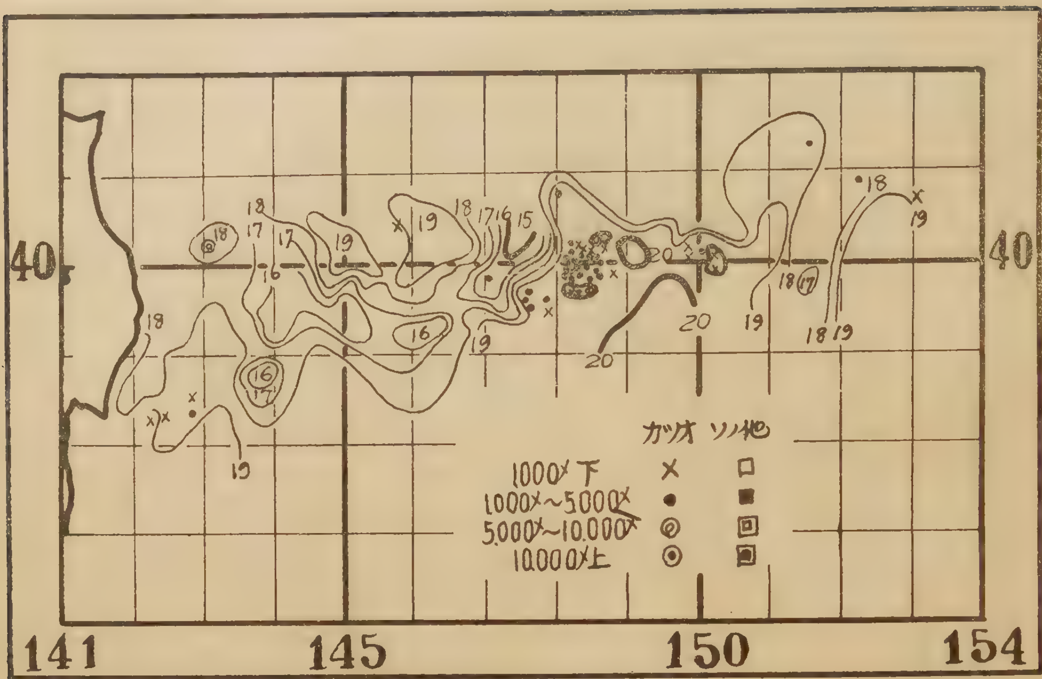
Ⓒ　２日頃より素群により好漁を見ている。群は多く餌付の非常に良い群も見られており15.000〆～満船した船も１日に２隻程度見られている。又この海区ではビンナガ（ハネ群）が極く僅かであるが漁獲されている。

目立つた漁獲は

（カ　ツ　オ）

N39°48′	E142°56′	水温19.4°C	鳥付中小群	付良好	目廻500匁以下	10.000〆
N39°48′	E150°08′	〃 19.6°C	素群中群	〃	〃 700匁	19.000〆
N40°07′	E149°53′	〃 20.3°C	素群中小群	〃	〃 〃	19.000〆
N39°48′	E150°11′	〃 20.2°C	素群大群	〃	〃 〃	14.000〆
N40°05′	E148°53′	〃 19.4°C	素群大小群	〃	〃 800匁	19.000〆

10月上旬後半（6日～10日）



（海　　況）

E 147°線以西では引続き水温低下が著しいがE 148°～151°間には尚根強く暖流系水帯が停滞しており海況の変化は見られていない。

（漁　　況）

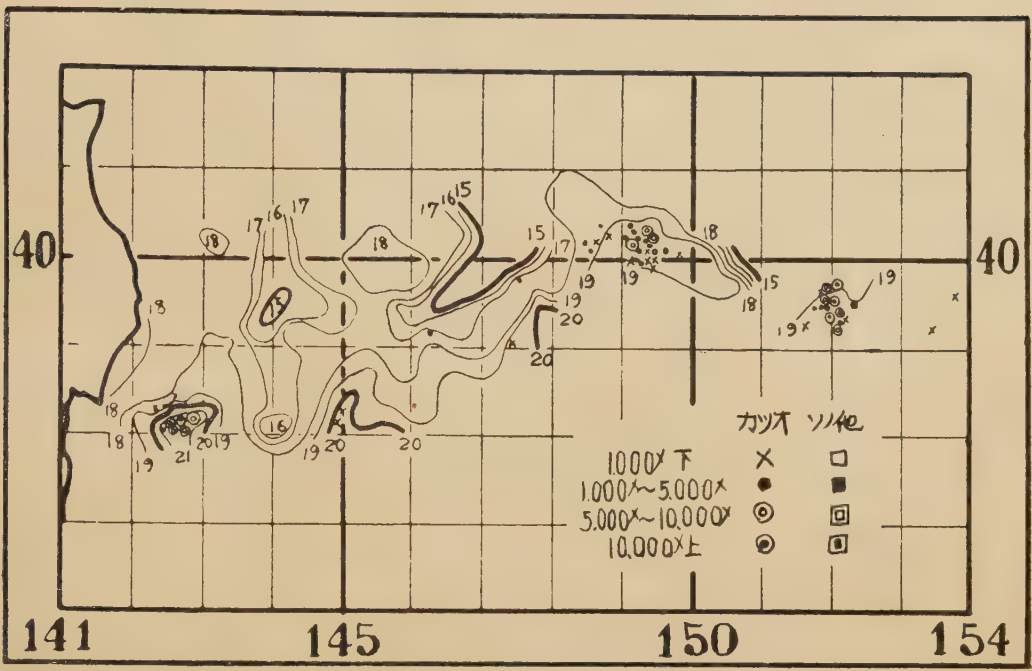
水温低下のため鮫角E 200浬及魹崎近海の漁場は消滅し魹崎E 300浬附近の素群漁場が前期より引続き主漁場となつている。8日には非常に良く各船共2.000〆内外の漁獲を見ているが大釣りをした船は見られていない。

目立つた漁獲は

（カ　ツ　オ）

N40°15′	E 143°02′	水温18.3°C	鳥付大群	付ヤヤ良	目廻800匁～1〆	5.000〆
N40°07′	E 148°15′	〃 19.1～6°C	素群大小群	〃	〃	〃	3.800〆

10月中旬前半（11～15日）



（海　況）

寒流勢力の南下はE144°.147°.151°線附近で引続き強勢であるが金華山E50～60浬附近は13日頃水温が1～2°C内外急激に高まり一時は22°C台の暖水塊の形成を見た。又魹崎E300～400浬附近には引続き優勢な暖流系水帯が停滞している。

（漁　況）

Ⓐ 素群が多く洄游し水温20°C台の暖水塊の消長と密接に関係して好漁を見ていたが13日頃この附近に多数形成されていた水温20°C台の小暖水塊が消滅してからは不振となつた。目廻りは800匁内外。

Ⓑ 前期より鳥付、曳縄で魚群を見ていたが13日には水温22°C台の暖水塊の形成を見て群は浮上し9.000〆～10.000〆以上の好漁を見た船が数隻見られた。

Ⓒ 15日より素群により好漁場を形成し1日3.000〆～5.000〆程度の好漁を見た。

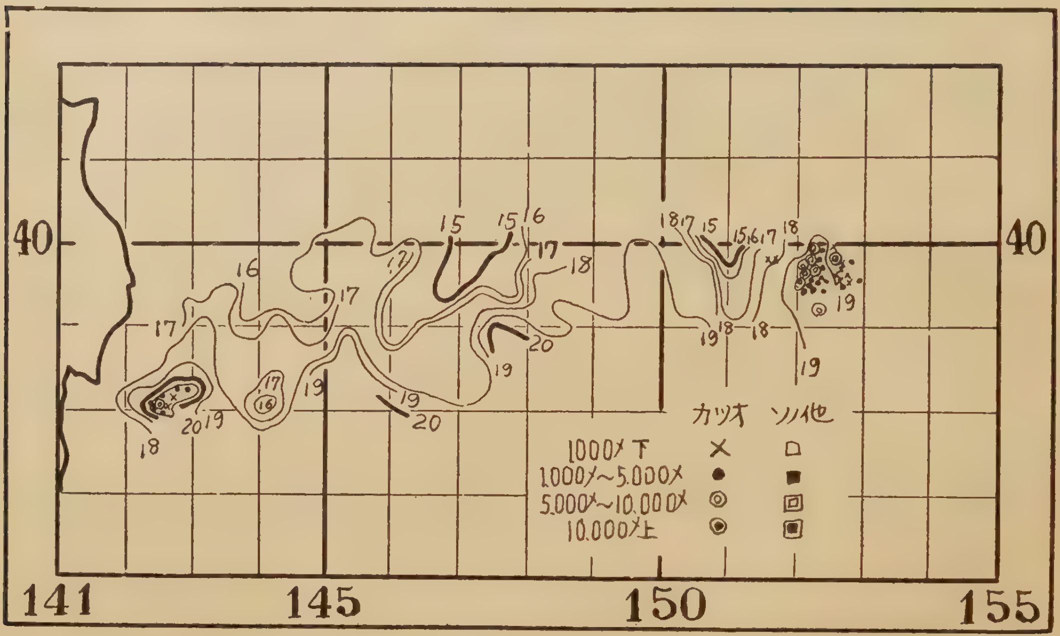
目立つた漁獲は

（カ　ツ　オ）

N38°13′	E142°35′	水温21.8°C	素群大小群	付良好	目廻700匁	10.000〆
N38°10′	E142°42′	〃 21.3°C	ハネ小群	〃	〃 〃	10.000〆
N38°12′	E142°38′	〃 22.1°C	素群大群	付ヤヤ良	〃 〃	10.000〆
N39°38′	E151°57′	〃 18.2°C	鮫付大群	〃	〃 800匁	7.000〆

N39°35′	E151°53′	〃 19.4°C	素群小群	〃	〃 7〜800匁	5.000〆
N39°29′	E152°00′	〃 19.3°C	素群小群	〃	〃	〃	5.000〆

10月中旬後半（16日〜20日）



（海　　況）

親潮勢力は三陸沿岸、E144°.147°.151°線附近を強く南下しており特に三陸沿岸及E147°線附近では18日以降急激に増勢して水温低下が著しい。

（漁　　況）

Ⓐ　引続き18日頃迄好漁を見ていたが其後は水温低下により不振となつた。

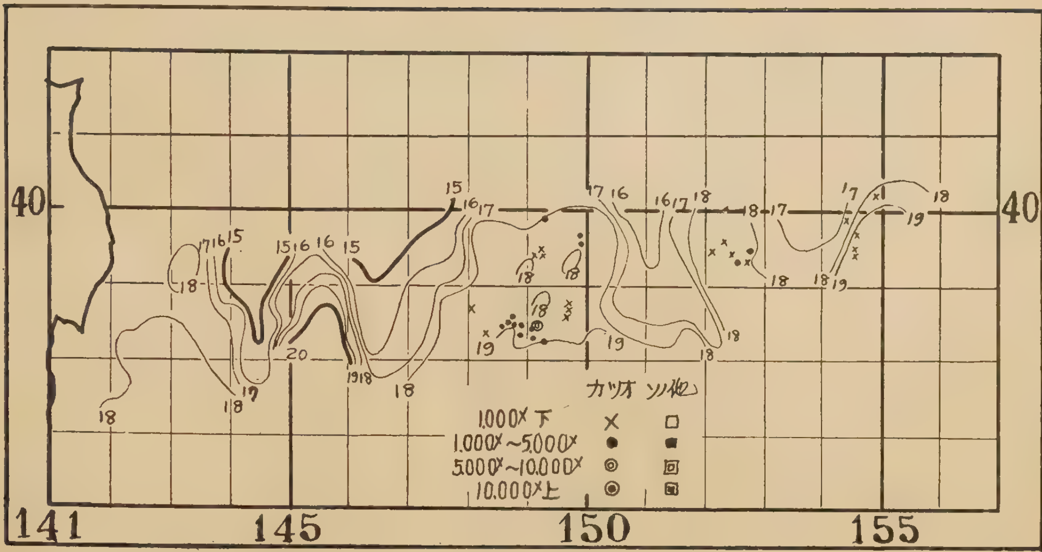
Ⓑ　15日頃より素群で好漁を見ていたが18日より漁場はその東側の18°C台水帯に移り不振となり1日500〆〜1.000〆程度となつた。

目立つた漁獲は

（カ　ツ　オ）

N39°40′	E152°03′	水温18.4°C	素群大群	付良好	目廻800匁	7.000〆
N38°03′	E152°25′	〃 21.8°C	素群大群	〃	〃 7〜800匁	7.000〆
N39°43′	E146°02′	〃 19.3°C	素群大群	〃	〃 800匁	7.000〆
N39°43′	E152°05′	〃 19.3°C	素群大中群	付ヤヤ良	〃 700匁	7.000〆

10月下旬前半（21日～25日）



（海　　　況）

各方面共親潮勢力は増勢して水温は急激に低下している。

（漁　　　況）

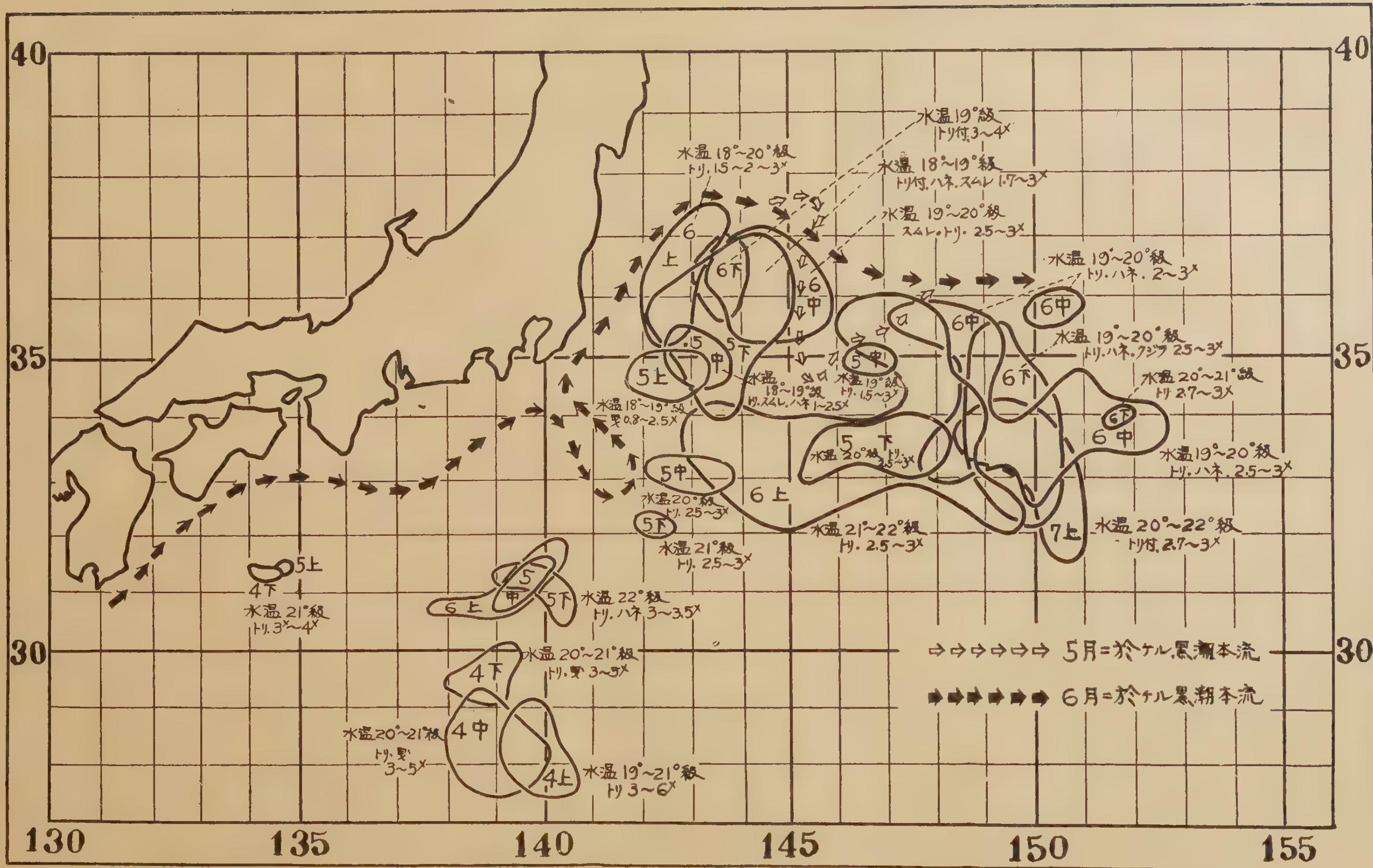
漁場は全て暖流系水帯の突出部の水温18°C台水帯に形成されている。25日には稍々良く１日1.000〆～2.000〆程度の漁獲を見た事は台風19号が接近している事と考え合せて興味深い。

目立つた漁獲は

（カ　ツ　オ）

N 38°30′　E 149°12′　水温18.6°C　　素群大群　付ヤヤ良　目廻700匁　5.000〆

昭和32年度　夏期ビンナガ鮪漁場移動図



夏期北上ビンナガ鮪の適水温について

本年度ビンナガ鮪漁獲量を水温別、月別に集計した結果次の通り。　　　　　　　　　　（単位貫）

水温＼月	3　月	4　月	5　月	6　月	7　月	合　計
18°級		400 (0.1)	232,934 (44.2)	56.047 (4.8)		289.381 (15.8)
19°〃	10 (0,8)	3,540 (4.3)	178.959 (34,0)	580.136 (49.3)		762.645 (41.7)
20°〃	633 (53,7)	50,228 (50.2)	67.158 (12.8)	355.551 (30.2)	23 314 (58.5)	496.884 (27.2)
21°〃	524 (44.4)	27,680 (33.3)	43.777 (8.3)	145.308 (12.3)	13.631 (34.2)	230.920 (12.6)
22°〃	12 (1.0)	1,328 (1.3)	3.700 (0.7)	39.364 (3.3)	1.296 (3.3)	45.700 (2.5)
23°〃				250 (0)	1.581 (4.0)	1.831 (0.1)
合　計	1.179 (0.1)	83.176 (4.6)	526.528 (28.8)	1.176.656 (64.4)	39.822 (2 2)	1.827.361

この表より

① 3月.4月.7月……20°.21°C台　5月……18°.19°C台　6月……19°.20°C台でもつとも多く漁獲されている。水温18°C台でこの様な好漁が見られた事は近年珍しい事である。

② 本年度の漁獲量のピークは6月にあり全漁獲量の65%弱は6月に漁獲されている。

③ 全般的には19°C台水帯を本年度最適水温とし40%強の漁獲が見られている。

昭和26年度以降についてもこれと同様の処理を行い水温別の漁獲量比率（%）を表に示した。

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	平　均
17°C	—	0.1	—	—	—	0	—	0
18°C	—	3.4	3.2	0.1	—	16.1	15.8	5.5
19°C	9.1	10.4	31.4	8.8	4.8	42.8	41.7	21.3
20°C	19.7	45.0	32.4	43.4	39.6	27.5	27.2	33.5
21°C	37.3	34.9	28.6	42.7	49.0	9.3	12.6	30.6
22°C	30.2	3.8	3.1	4.3	5.8	3.7	2.5	7,6
23°C	3.0	1.8	1.3	0.4	0.6	0.5	0.1	1.1
24°C	0.2	0.1	0	—	0.3	—	—	0.1
25°C	0.2	3.0	—	—	—	—	—	0.5
26°C	0.2	—	—	—	—	—	—	0
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

これによれば

① 昭和27.28年度、29.30年度、31.32年度は水温的に夫々似た様な漁獲量比率を示している。

② 全般的には19〜21°C台水帯を適水温とし20°C台級水帯に漁獲量のピークが見られる。

以上は本県関係船134隻（50T以上）中、郵送で資料の提供をうけた81隻の資料により取纒めたものである。

低気圧とビンナガ鮪漁況との関係について

本調査は昨年度迄行われて本場事業報告書第5.8.12号にも記載されており可成り密接な関係のある事が立証されているが今年度についても同様の調査を行つた。

調　査　要　項

イ）調　査　の　方　法

(a)　各月各旬毎に主要漁場と定めた。（第１図）

(b)　天気図は中央気象台のものを使用した。（第１図）

(c)　主要漁場に近接した低気圧の影響について漁獲量の日変化を調査した。（表及第２図）

ロ）調　査　期　間

昭和32年4月より7月迄

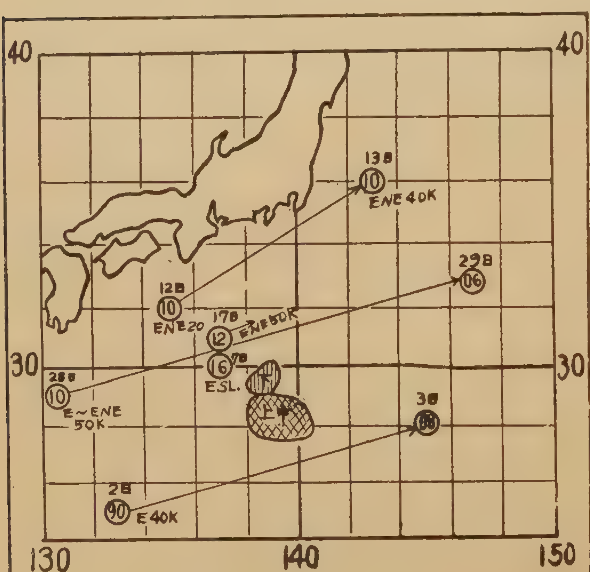
ハ）調　査　船　数

三重県関係船81隻延451航海

尚第１図中○印が低気圧、○中の数字は気圧の下２桁をとつたもので96とは996mb 06とは1006mbを示す。又第２図中—•—•—は低気圧の接近を示す。

4　　月

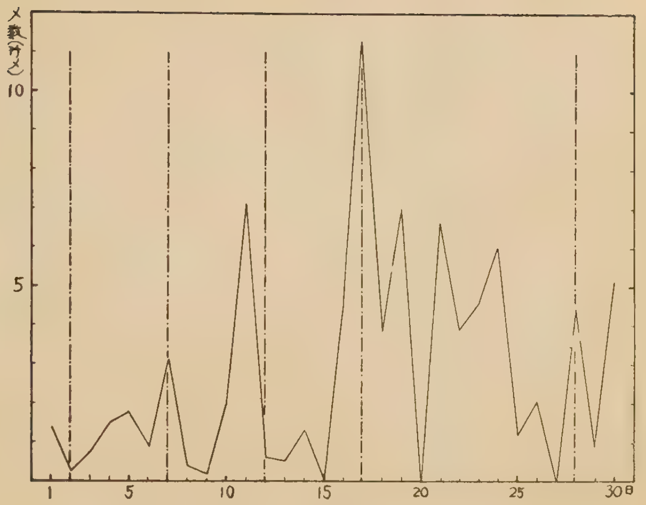
（第１図）主要漁場と来襲した低気圧



（第１表）日別漁獲高表

日	漁獲隻数	漁獲〆数	日	漁獲隻数	漁獲〆数
1	3	1.413〆	16	1	4.459
2	3	281	17	6	11.304
3	2	728	18	4	3.832
4	3	1.493	19	10	6.996
5	5	1.784	20	—	—
6	4	866	21	6	6.632
7	4	3.114	22	8	3.913
8	3	396	23	16	4.607
9	1	181	24	12	5.996
10	3	1.973	25	4	1.180
11	8	7.142	26	3	2.044
12	3	635	27	1	12
13	3	487	28	4	4.459
14	2	1.315	29	1	820
15	—	—	30	3	5.124

（第２図）日別漁獲高と低
気圧来襲日



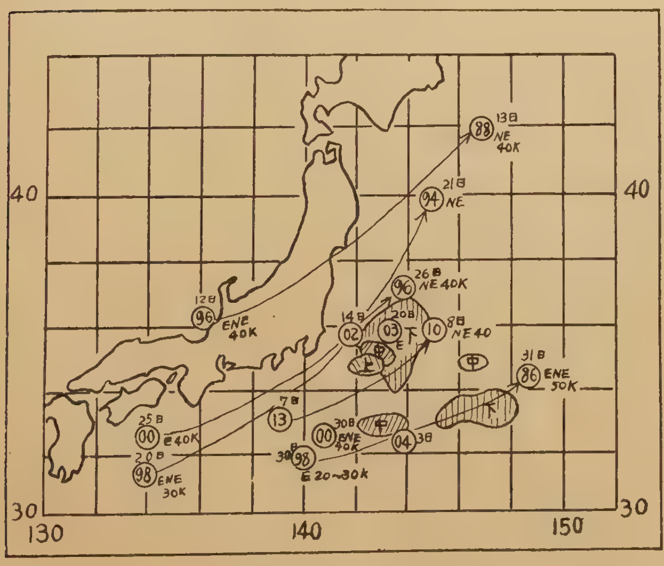
① 7．17．28日来襲したものは当日に好漁である。これら三つの低気圧に共通していえる事は比較的中心示度の高いもので漁場附近に接近して通過している事である。

② 12日通過のものは当日に不漁で前１日に好漁を見ている。

③ ２日の低気圧は漁況に顕著な影響を与えているとは考えられない。この低気圧だけが本月漁場の南側を通過している。

5　月

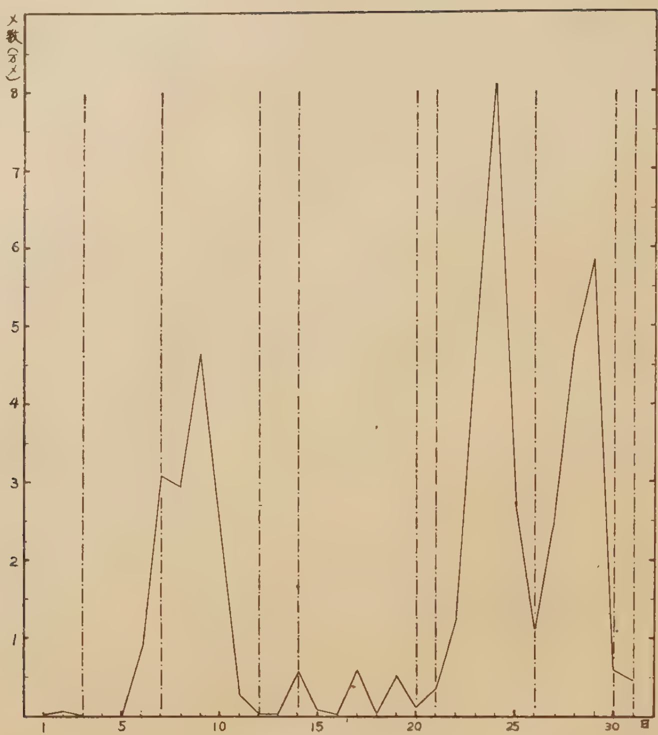
（第１図）主要漁場と来襲した低気圧



（第１表）日別漁獲高表

日	漁獲隻数	漁獲〆数	日	漁獲隻数	漁獲〆数
1	3	228	16	2	139
2	2	524	7	8	5.975
3	—	—	18	1	300
4	—	—	19	4	5.176
5	—	—	20	5	1.092
6	4	8.829	21	3	3.487
7	19	30.931	22	9	12.419
8	27	29.568	23	17	87.278
9	23	46.615	24	33	81.049
10	22	23.864	25	23	27.456
11	9	2.623	26	9	11.163
12	2	250	27	22	24.448
13	1	294	28	26	47.136
14	7	5.984	29	28	58.573
15	2	715	30	11	5.828
			31	10	4.582

（第２図）日別漁獲高と低気圧来襲日



５月には非常に多くの低気圧が通過しているので中心示度1012mb以上の低気圧は除外した。

① 来襲当日に好漁を見たものは７日のもの以外には見られないがこれは上記の理由によるのかも判らない。７日の低気圧は中心示度が高い事は前月①の説明と合致する。

② 12.26.30.31 の４つは来襲前 1〜3日にいづれも好漁が見られている。これららの４つに共通している事は中心示度が低く漁場の北側若くは漁場を通過している事である。

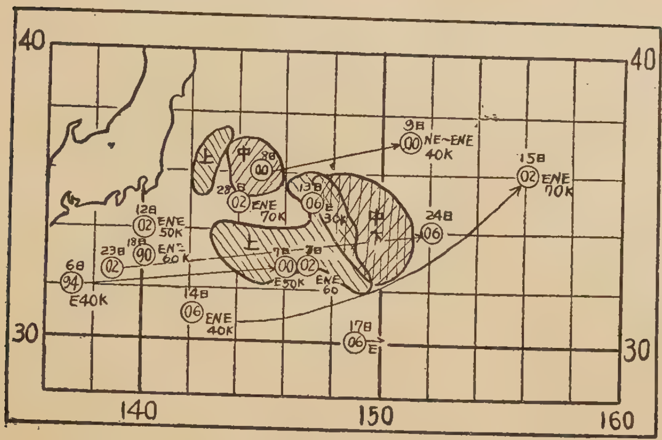
③ 今月も漁場の南側を通過している低気圧（３日）は顕著な影響を与えていない。

④ 20.21日に来襲したものは通過後3〜4日に好影響を与えているとも考えられる。

⑤ 14日来襲したものは②同様種類の低気圧であるが通過前後いづれも不況となつている。

6　月

（第１図）主要漁場と襲来した低気圧

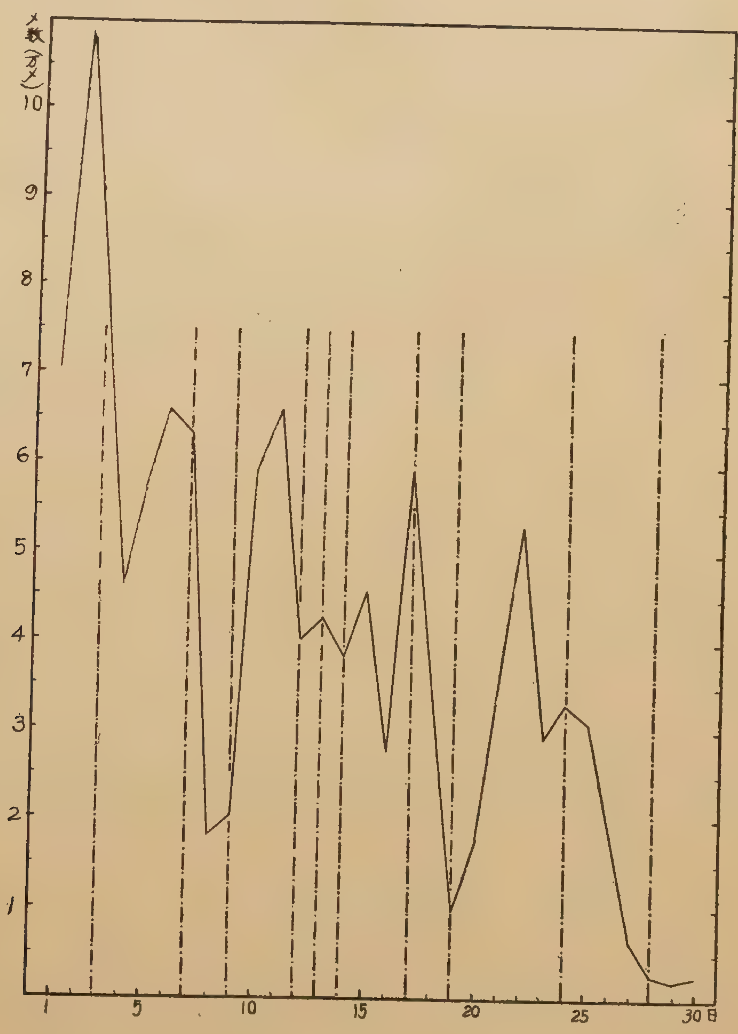


（第１表）日別漁獲高表

日	漁獲隻数	漁獲〆数	日	漁獲隻数	漁獲〆数
1	33	70.327	16	25	27.660
2	34	108.784	17	21	58.360
3	30	79.458	18	13	30.250
4	26	45.875	19	10	9.732
5	21	57.083	20	14	17.574
6	23	65.780	21	20	36.093
7	27	63.080	22	29	52.811
8	14	18.025	23	30	29.095
9	12	20.282	24	21	32.818
10	27	59.100	25	22	30.820
11	33	66.084	26	17	18.620
12	32	40.046	27	6	6.620
13	25	42.681	28	3	2.740
14	30	38.000	29	1	2.000
15	29	45.418	30	1	2.500

（第２図）　日別漁獲高と

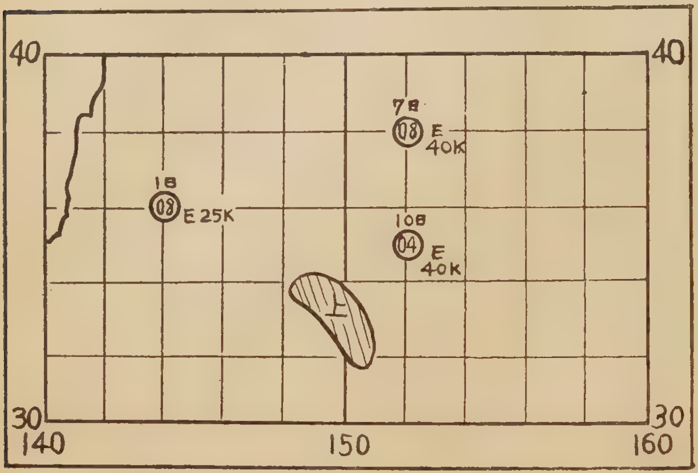
低気圧来襲日



今月来襲した低気圧はいつれも来襲前1〜3日に好影響を与えていると思われる。

7　月

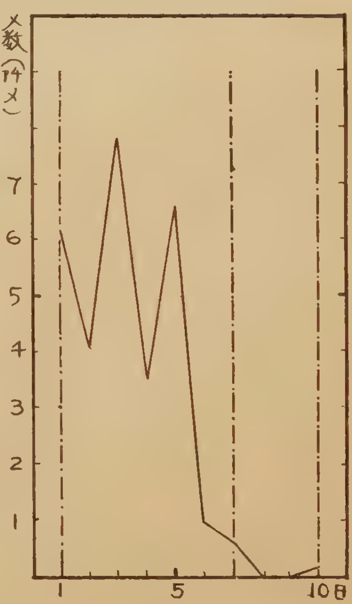
（第１図）主要漁場と来襲した低気圧



（第１表）日別漁獲高表

日	漁獲隻数	漁獲〆数
1	3	6.195
2	3	4.109
3	9	7.830
4	11	13.507
5	7	6.608
6	4	971
7	1	600
8	—	—
9	—	—
10	1	170

（第２図）日別漁獲高と低気圧来襲日



低気圧は漁場から可成り離れて通過しており比較的接近して通過した10日の低気圧では10日以降は殆んどビンナガ漁場に出漁船が見られていないので判断は下し得ないが１日の低気圧は後２日に、７日の低気圧は通過前２日に好影響を与えている。

以上を要約すれば

① 中心示度の比較的高い低気圧が漁場に接近して通過した場合は来襲当日に好漁が見られる様な傾向がある。

② 中心示度の低い低気圧が漁場内を通過した場合若くは漁場の北を通過した場合は通過前1〜3日に好漁の見られる場合が多い。（通過後に見られる事もある）

③ 漁場の南側を低気圧が通過した場合は低影響を与えない場合が多い。

以上は本県関係船のもたらした資料によりまとめたものである。資料を御提供戴いた下記各船の乗組幹部諸氏並報告担当者の皆様の熱心な御協力に対し厚く御礼申し上げる。

郵送にて資料提供の船名　（順序不同）

才1	小幡丸	才2	盛勇丸	才12	東丸	才8	清鳳丸
才2	大喜丸	才2	宝栄丸	才3	幸福丸		慶福丸
才3	成平丸		万栄丸	才3	福寿丸	才5	正中丸
才3	光富丸		勘栄丸	才8	高尾丸	才11	妙徳丸
8号	寿々丸	才1	大紀丸	才2	金栄丸	才16	明神丸
才13	快進丸	才2	笹山丸	才5	長勝丸	才7	明神丸
才2	共和丸（三木浦）	才5	山城丸		歓喜丸	才1	千栄丸
才1	進取丸	才5	笹山丸	才8	漁勝丸	才9	東丸
才3	豊吉丸	才15	宝幸丸	才3	春成丸		とよはた丸
才2	勝栄丸（三木浦）	才5	新宝丸	才1	大勇丸	才2	源吉丸
才1	幸漁丸	才8	幸福丸	才1	幸盛丸	才2	安栄丸
才10	明神丸	才2	源勝丸		大益丸	才11	大盛丸
才1	高宮丸	才1	初昌丸	才1	成平丸		たか丸
才8	宝栄丸	才1	海王丸	才5	感応丸	才11	加茂丸
才2	長久丸	才1	正丸	才1	長久丸		甚幸丸
才2	共栄丸	才1	共和丸	才5	東丸	1号	寿々丸
	幸盛丸	才8	漁新丸	才1	福丸	才2	共和丸（田曽浦）
才11	住吉丸	才3	明星丸		誠寿丸	才3	盛勇丸
才2	白鳳丸	才7	盛秋丸	才7	鹿島丸		協洋丸
	東福丸		貫栄丸	才10	開運丸	才2	勝栄丸（宿浦）
才5	柘新丸		恵比寿丸	才1	大盛丸	才1	和光丸

無線電信にて資料提供の船名

浜島漁業用海岸局管下の鴻洋会加入全船

尾鷲漁業用海岸局管下の碧水会加入全船

昭和33年3月

発行所　三重県水産試験場

三重県志摩郡浜島町　電話浜島局16番

印刷所　千巻産業有限会社

伊勢市宮後町　電話(代表)4131番